禁裏御所御用日記 一七〇

826
374
91

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

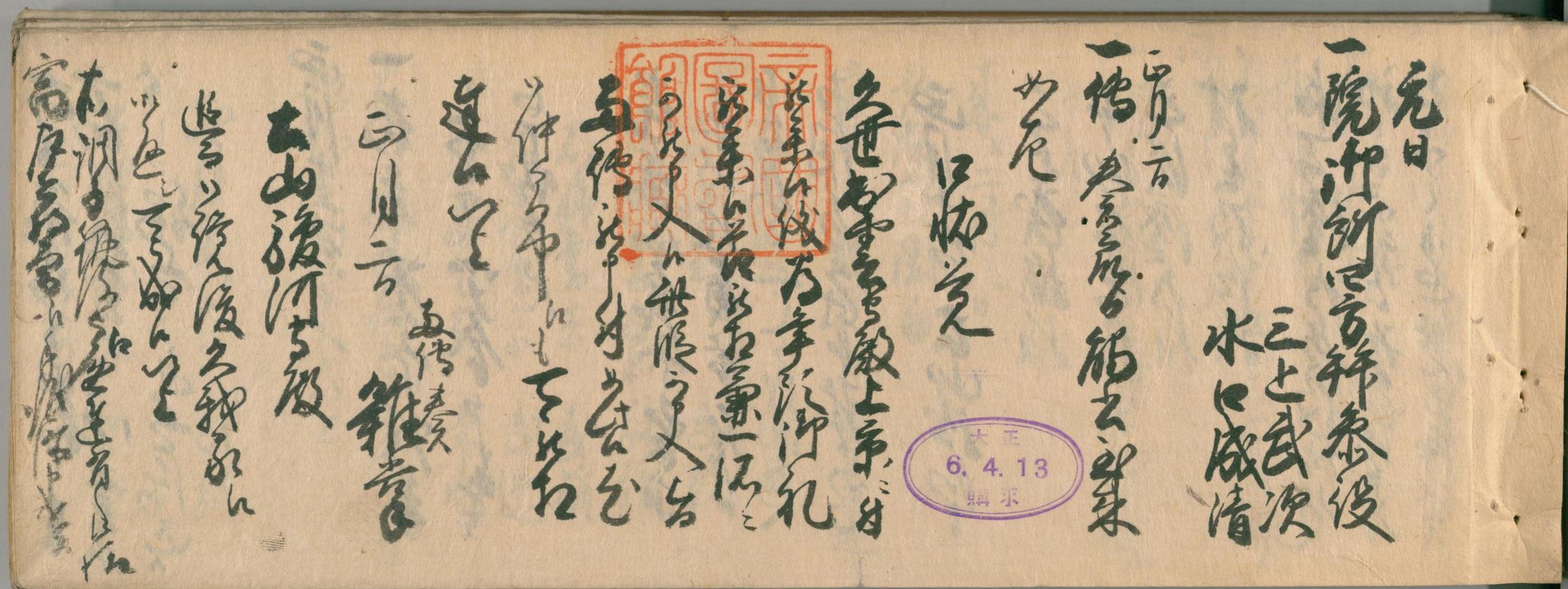
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

170

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用



6. 4. 13
購求

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

右御使ニ而寒晒しニ付
両御所様御見舞として 御書状
[illegible]差上候由

四月十六日
一 南都奈良御奉行
[illegible] 中井主計
[illegible]

当年加茂祭ニ付
[illegible]
[illegible]
[illegible]
四月十六日 右山城守
三上武蔵様
左近将監様
三浦壱岐守様
杉浦丹後守様
追而 [illegible]
[illegible]
[illegible]

御頼しまいらせ候

右之状三沢法橋為持
為御持参
右之書付十五日三上武蔵へ
同晩御渡し

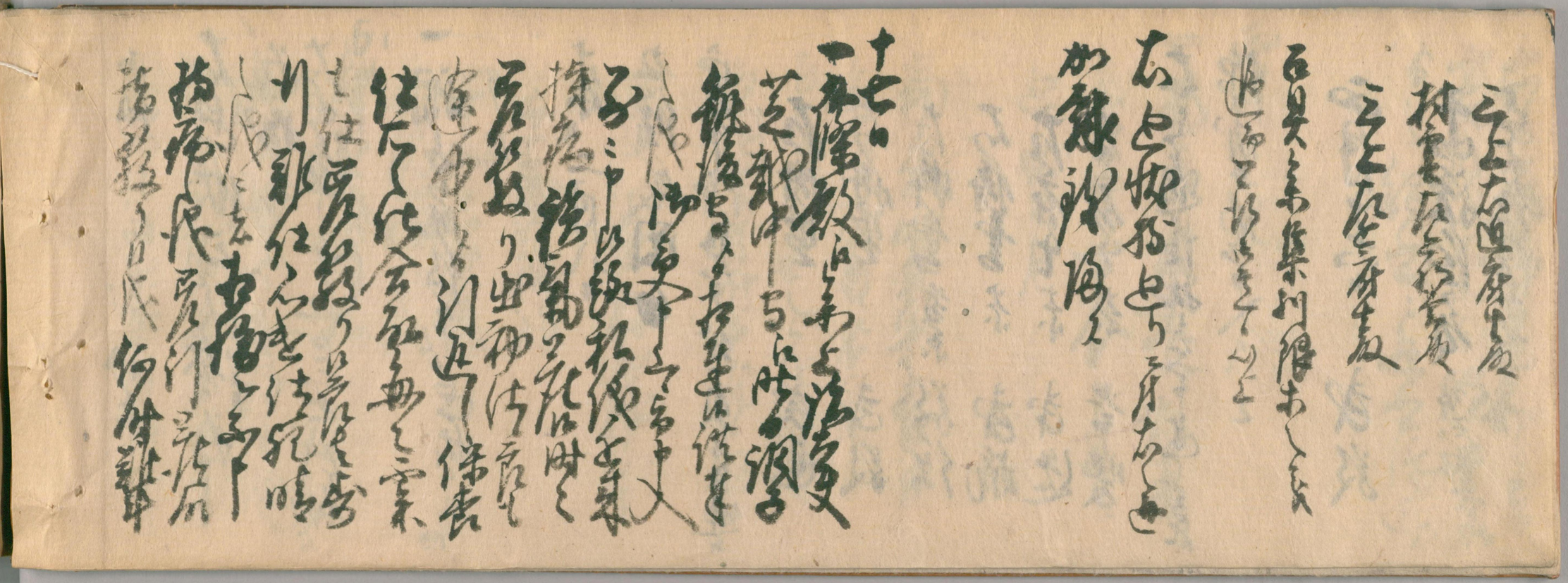
一調子廉付らう上様まいる
まいる

未ノ二月八日
九條殿関白
宣下御祝儀ニ付一箱ヲ遣ス

左将監　武道
右将監　武致
左将曹　菊亭　武致後
右将曹　茶　武疏
左府生　茶　武逸
右府生　茶　常暖

右之通持参ニ上ル
御所御用文ハ御渡之

四月十六日　武致
土御門殿　御所
上経濃母殿



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

抱候て一通ニ而御候
御頼候処渡候得
御所中合而御ニ而候事
此外御座
四月十七日
右之願書之通申渡ニ付
此節佐伯少史承知之
可之御書付差出シ候
奉行所ニ而相渡ニ付
私共ゟ差出申候
右武臣部ゟ随身位階
之通ニ而村上敬信ニ
申達ニ相成候事

四月十九日
一左之交名今日
出ス
廣橋殿ニ而御附ニ差出ス

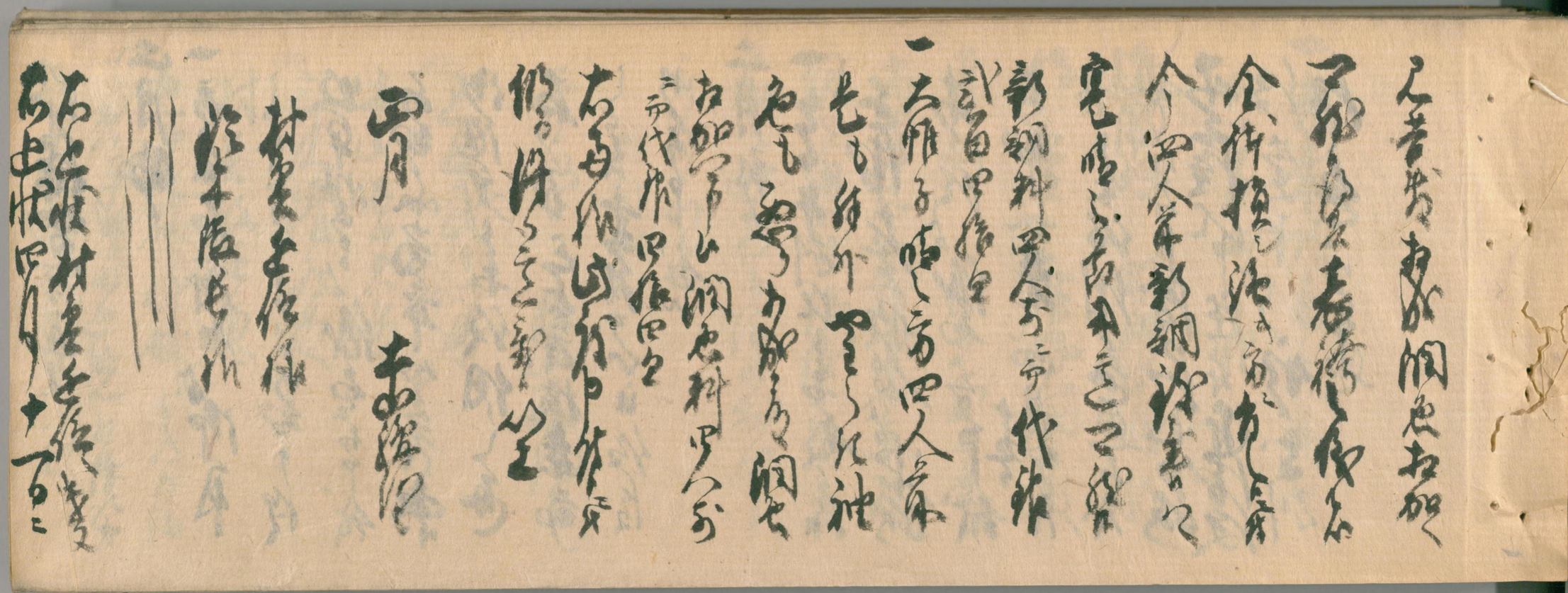
右之上書作色紙
御随身賀茂祭奉役官位姓名

従六位上　三上　右近衛将曹秦武統
従六位上　土山　左近衛将曹源厚典
従六位下　三沢　左近衛将曹源澄為
従六位下　横雲　左近衛将曹藤原敬信

右之通若狭守ゟ承候
被仰聞候ニ付承届置
一 両伝奏衆ゟ奉書到来
如左
柳原准大臣様薨去ニ付
従今日明後日迄
三ケ日之間廃
朝候
同年三月廿七日近衛殿
御用有之由ニ而罷出候
且修学寺村御座候
御沙汰之通申上候旨ニて
是迄通候様申
同月十九日　両伝奏　参
新家
土山駿河守殿
退出之後名録被下ニ
如此ニて差出候
同月廿三日宿番之際持参
停止

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

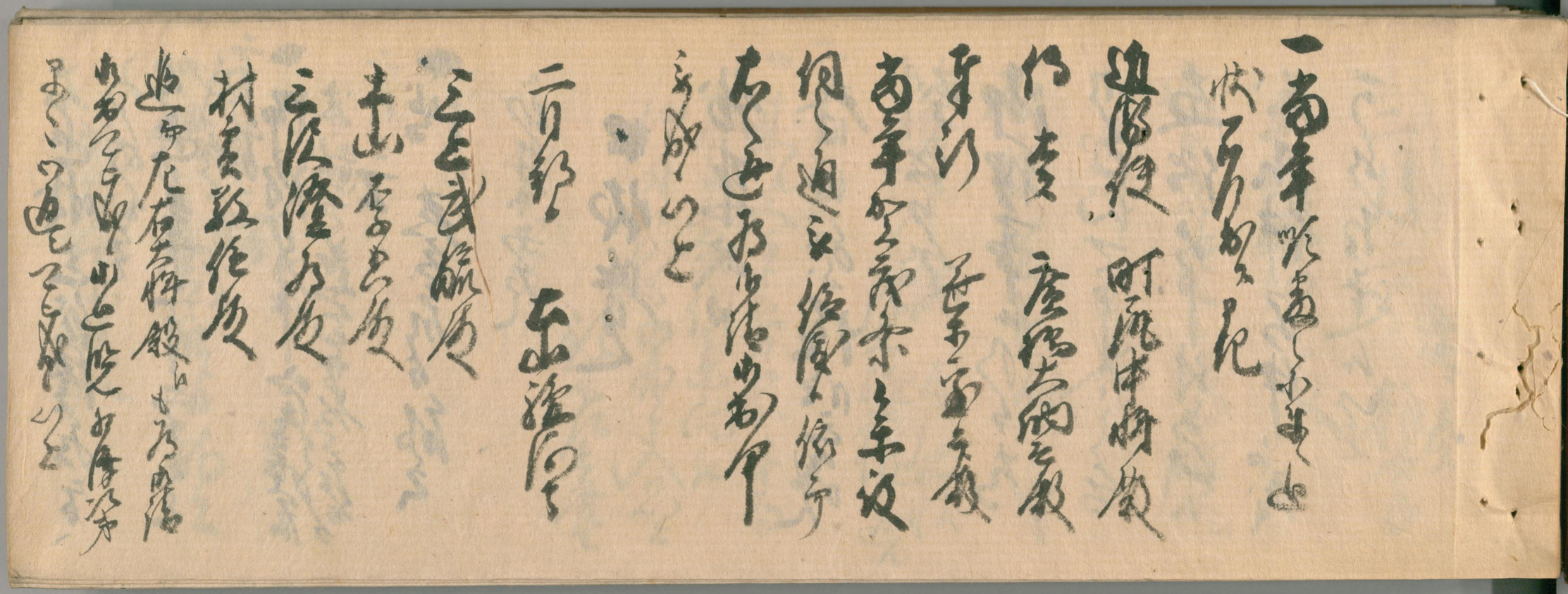
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



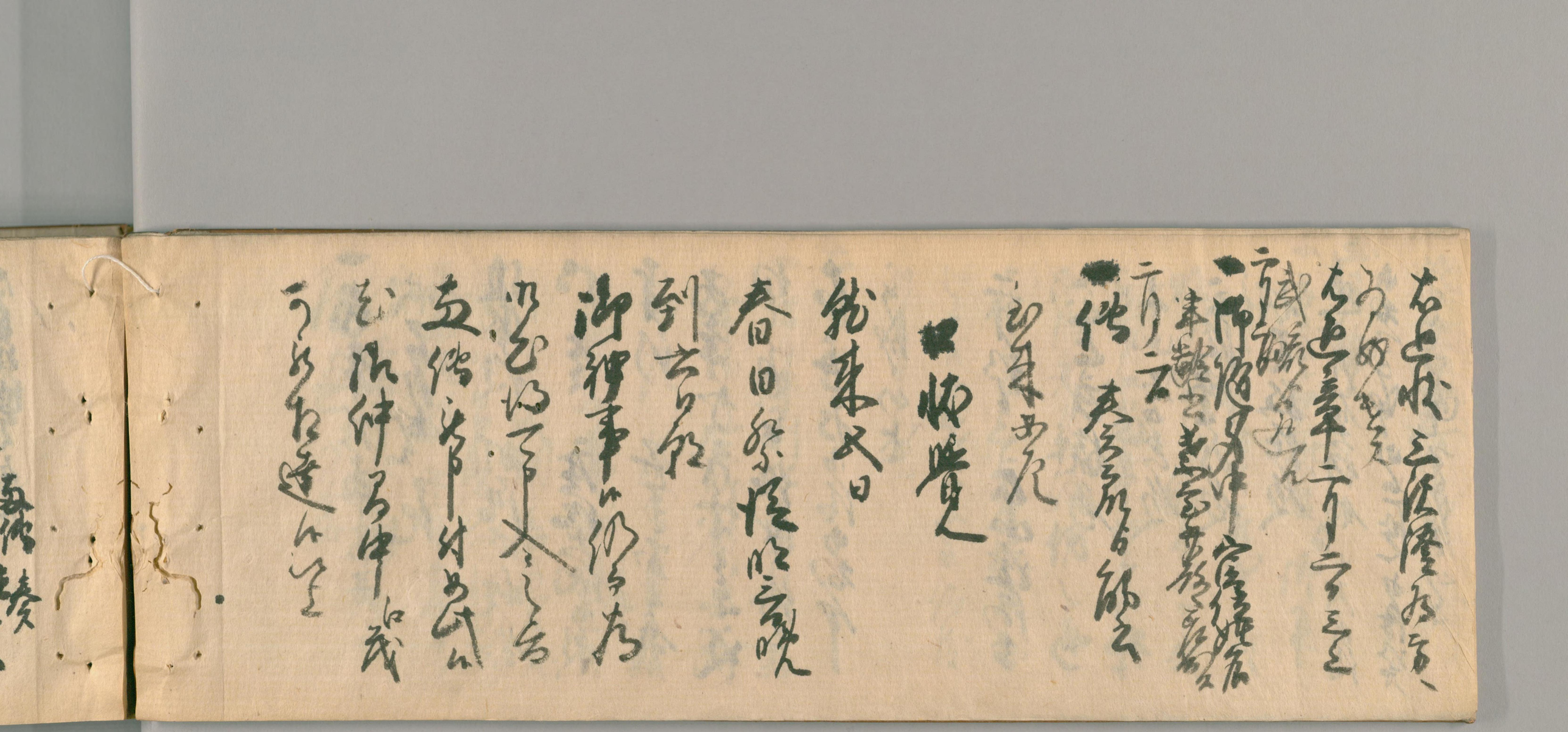
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

禁裏御修覆覚書　合五通之
正月朔日
一　京都所司代殿より御用
にて参上いたし候所
牧野備後守殿より紙面にて
所司代殿御用部屋にて
御修覆之事被仰付候
右ノ通三御殿禁裏御
修覆之儀仰付被仰付
旨申渡候

二月朔日
一　今午刻に所司代殿より
御用屋敷所司代殿より御召
参上仕候所紙面にて申渡
御手紙にて禁裏四月十五日参勤
参内主役所御目見之儀
其外御修覆御用取扱候
禁裏御修覆奉行被仰付
御普請方相勤候
御用之儀仰付之由



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

二月二日　安倍泰　雑掌

土御門殿

進上之御撫物被成候ニ

此品ハ[illegible]

右御祈禱書ニ付御中

ニ蔵中館ニ　大鍋ハ

二月十一日　岸五郎掛紙返上

二月十二日

一来ル年忌宗旨ニ付為

摩事寄代ニ付向江

御料ニ而為御用文箱

雑掌へ

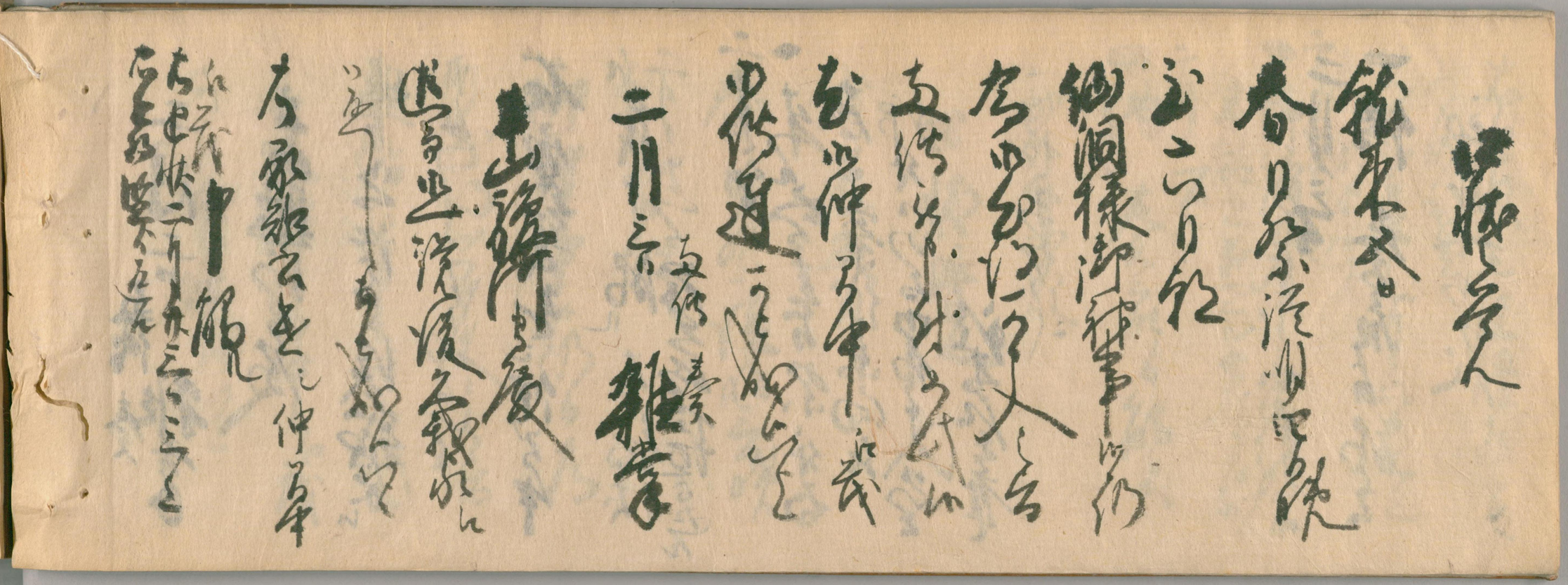
太掛帳可有之

二月三日

一備

奉納御能之

御[illegible]



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

口上覚

此度甚暑澄（スミハル）発被為在
候ニ付下拙府生中之
諸向寛衆和融坊城
奉願候　御披露被成
被下候ハゝ難有可奉存候
先ハ右様奉願以上

二月六日　三浦屋[illegible]書

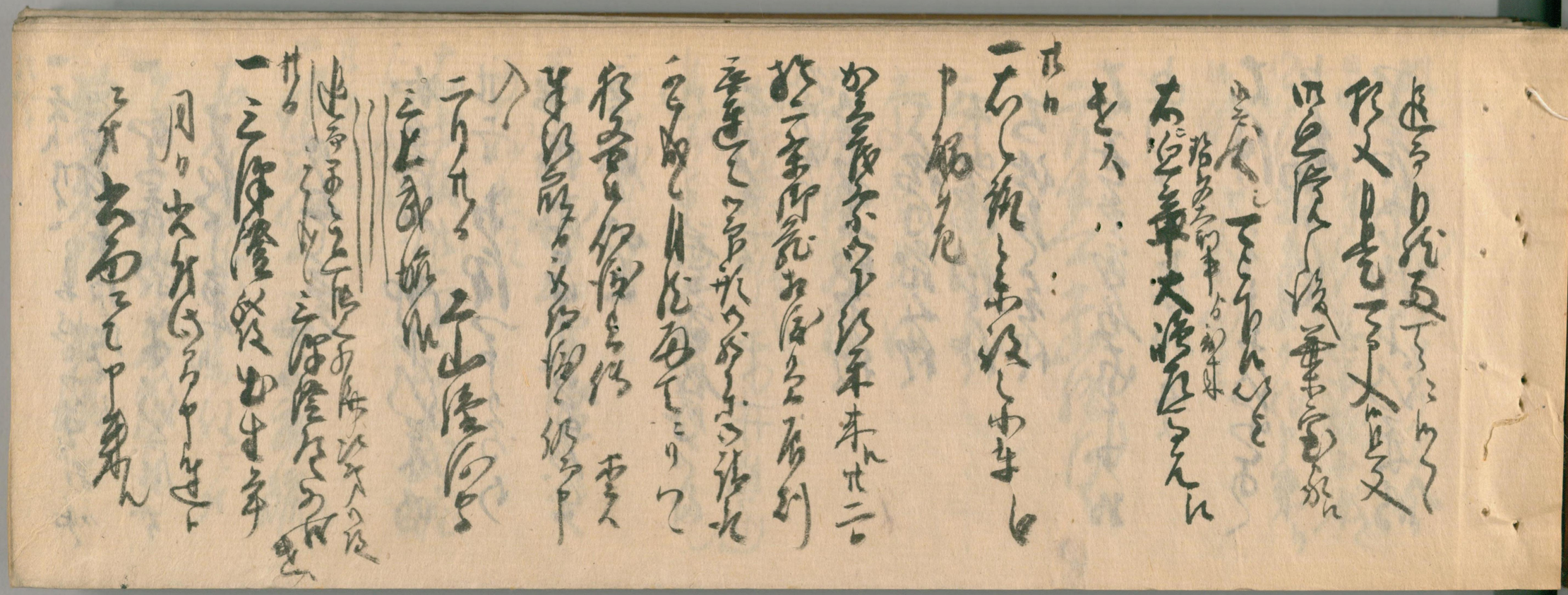
東山殿御家様

右之通三千石加増被仰出
三月十四日
右之通被仰出候
関東江御使者被遣候
右之通御沙汰被仰出
合　此外銀[illegible]

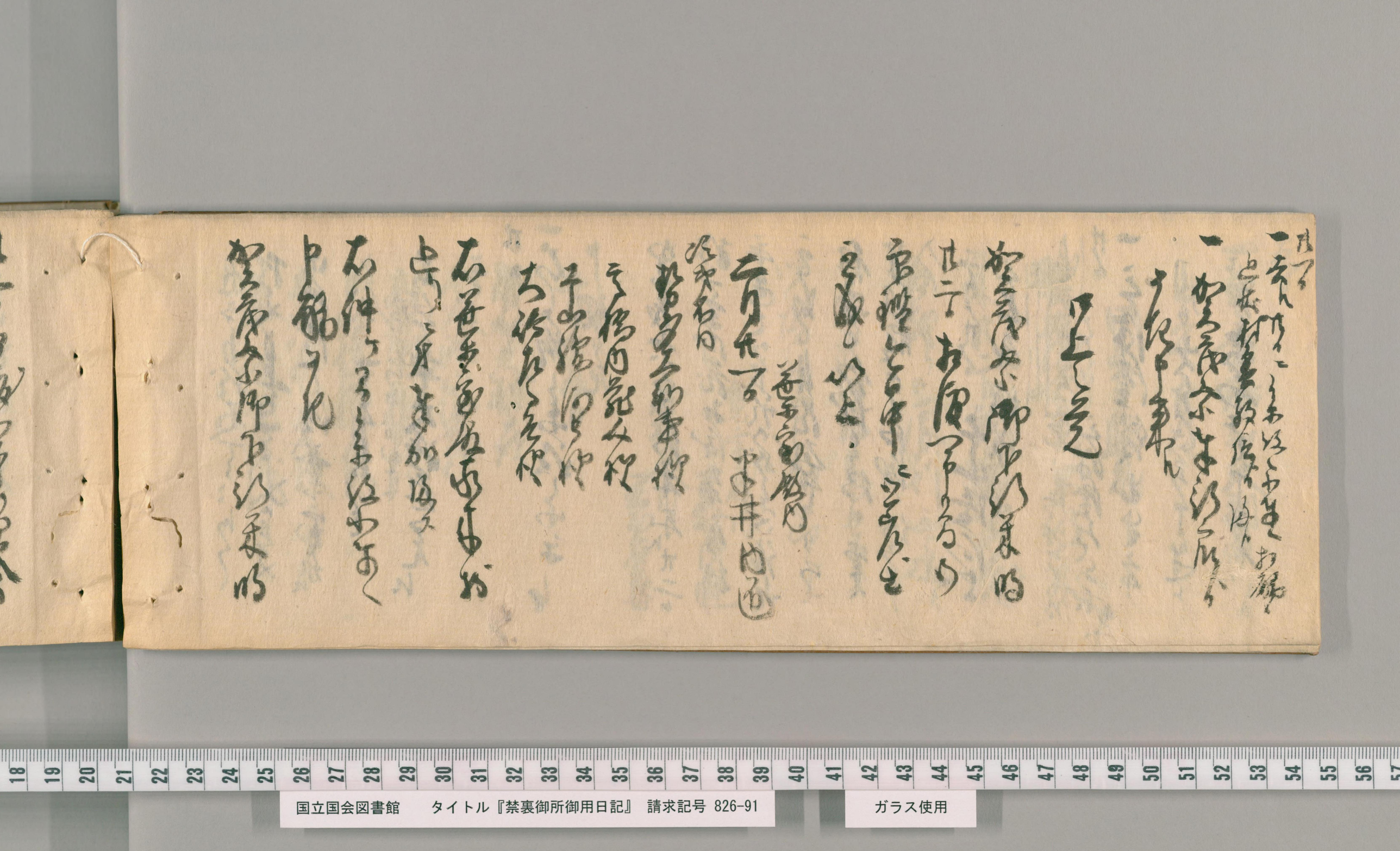
右之通奉承知候
御所向之御沙汰三千石御増
被仰渡候ニ付御届申上候
日々二十二日
[illegible]
三浦屋[illegible]

一　右之通り[illegible]
官下り[illegible]

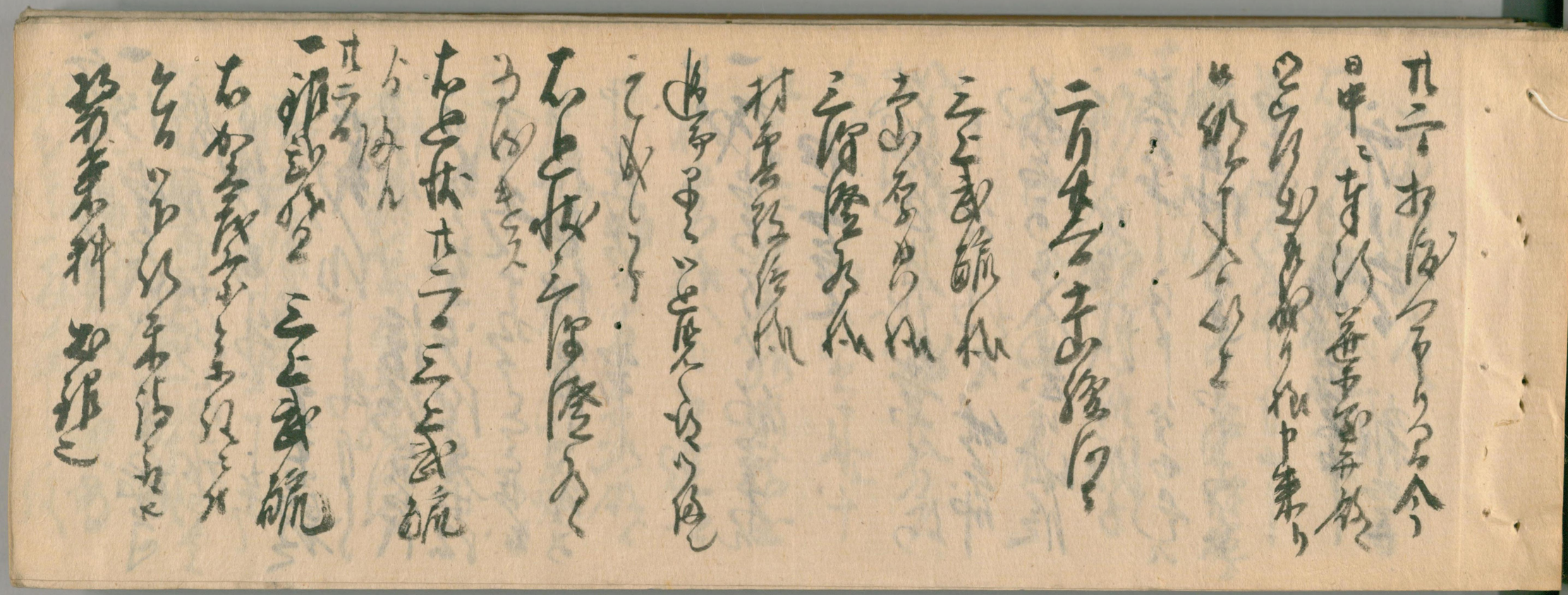
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

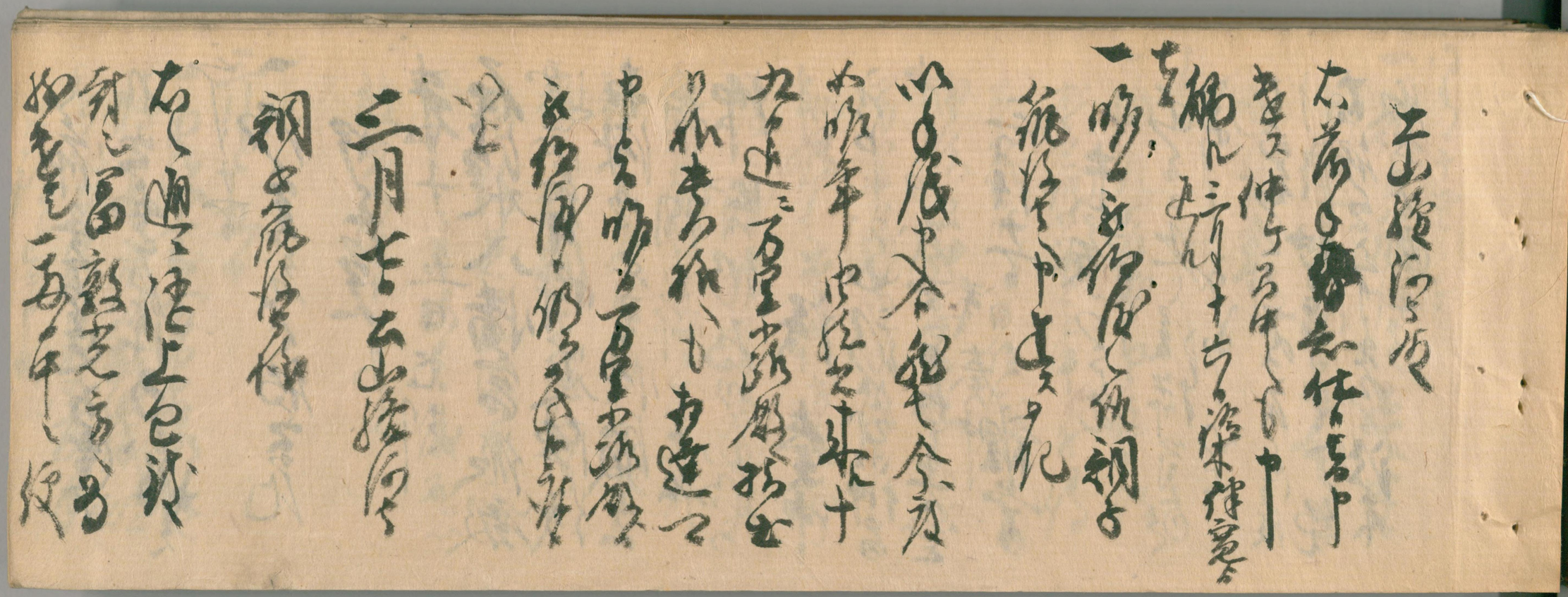


国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

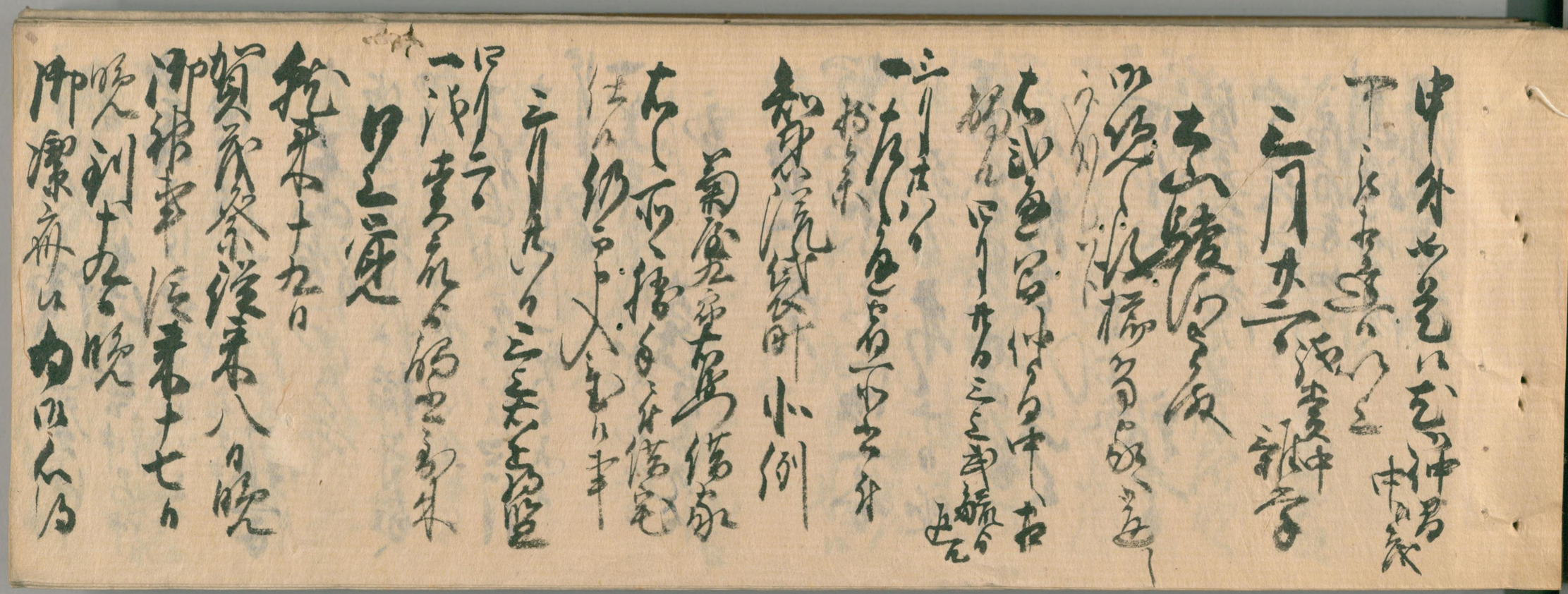
ゝ節季ニ近々達て
祝出雲へ御作りぬ様ニ
二月十一日
一御書ニ所々御心得元
日々見之
来十五日 巳刻
石清水八幡宮御殿
遷宮日時定陣儀
右ニ付御三方御服着
候 内々御仰し出候
御出御座候ニ付御内々
中 ゝよろ 候 奏中
御用出羽へ以伊呂
中山殿へ右之通
候 奏中 雑掌
三月十六日
土御門殿
出雲口沢渡御殿
[illegible]
右御[illegible]ニ付[illegible]
[illegible]伊呂中へも[illegible]
右御[illegible]先々ニ[illegible]
[illegible]

同十四日
一 親王御方様より今日
中院へ出雲所へ御成
遊はされ
十五日
一 此度召出中納言被仰
出候 花院殿の御事中きく候
出花院殿へ御附御免へ候
中納言御所御願し候
万里小路中納言殿へ申し
御附 出花院殿御内藤卿
候へは 雑掌名前ね
徳大寺殿へ二月五日卿
雑掌名前御所へ
申し候 親王御方様より
当番之者にて 此当番へ
申し上候 此段 御心得
被下候へ 御申上候

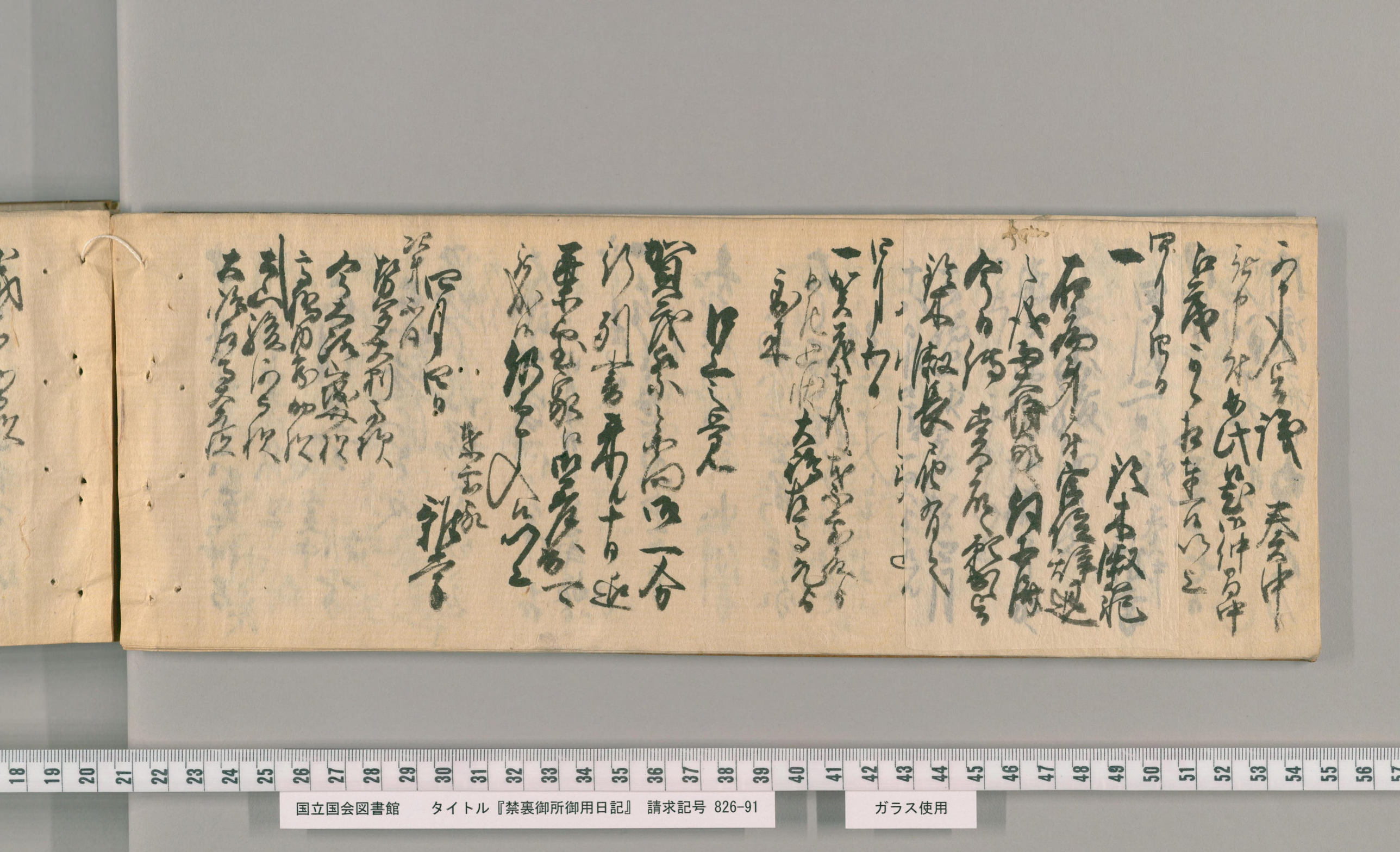
三月十五日
一 中納言 万里小路殿
松本 彩次右衛門 紙
をんとし おふやうに 候へ
御 親王 御申

国立国会図書館　　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91
ガラス使用

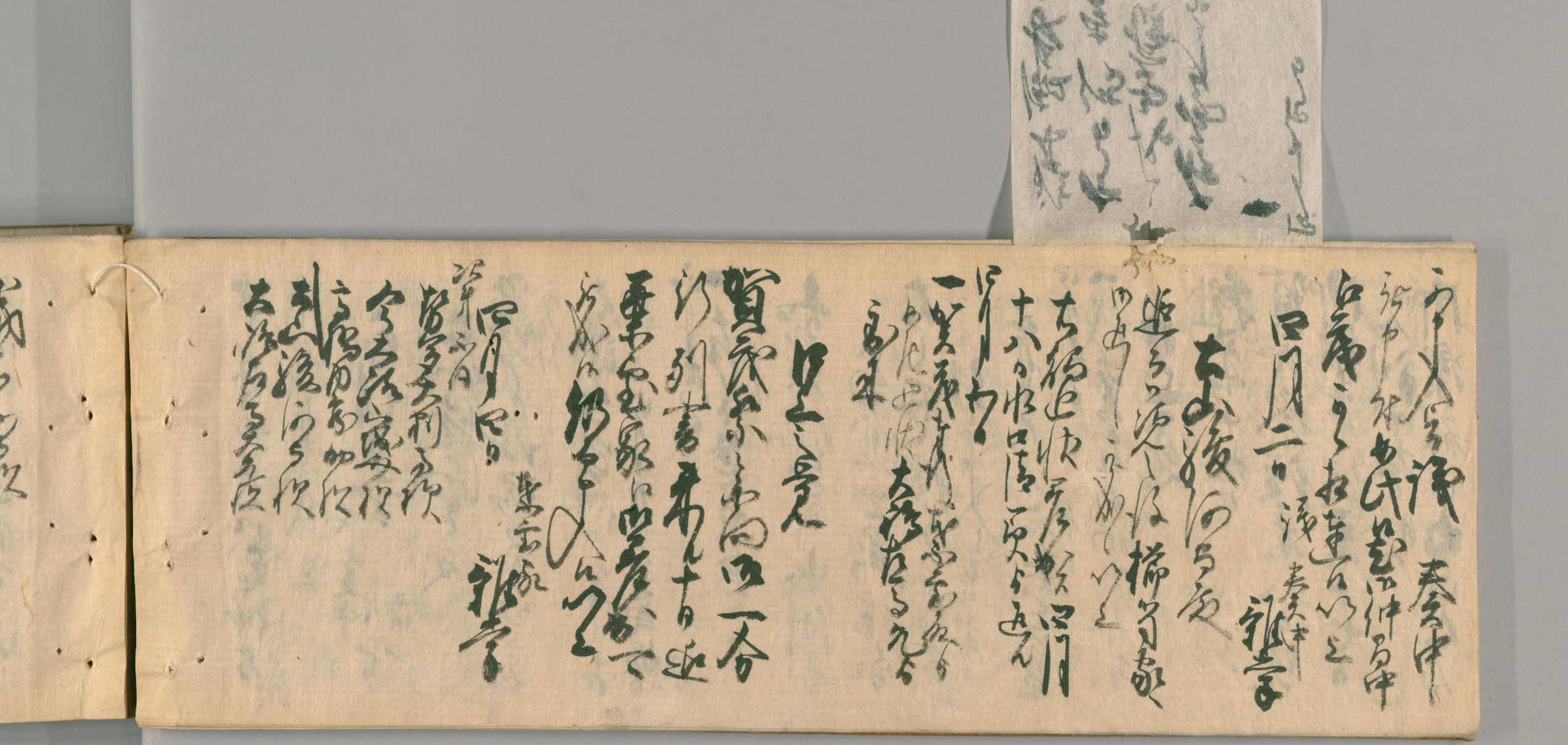
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



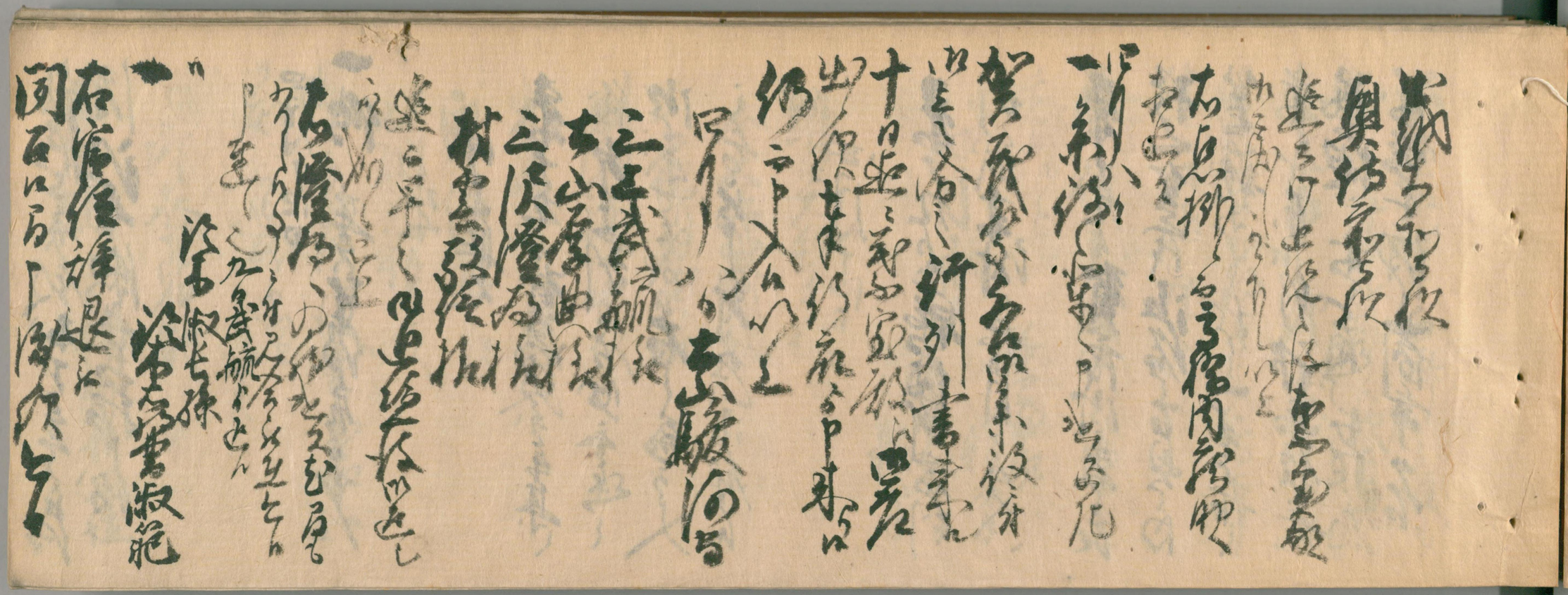
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

御所ゟ来候由申上候ニ付
演説書相添差出ス

四月十四日
一 修理職ゟ御用ニ付参ル
御用ニ付参ル

口上覚
来ル十九日賀茂祭ニ付先年之
儀上刻ゟ御附差遣し
御承知被下候様頼存候
右之者申付候様可被下候
以上

四月十四日
来ル十九日賀茂祭ニ付所司代
別紙書附差出申候
来ル十九日賀茂祭ニ付当日
様子賀茂社江罷越候ニ付
差越ニ付一通り相達し
前之通り御神事之節
築地之内[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

同中頭　出納　源慶寿
勤兵衛

内蔵寮　鴨脚甲斐

主殿使　泉亭二位

同中頭　同所門内

検非違使　山崎文之進

同中頭　中澤右兵衛大明家

御随身　鴨脚三位

楽人宗従　東儀多門

同中頭　下田右佐衛門
山口市之進

左馬寮　林　治部

史生濱士　山口右京

看督長　林薩摩

火長　山崎要之進

童子　井上備前

主水司　井上丹後

御傳奏　勧修寺右大覧

同中頭　同所門内

御奉行　東園陸奥

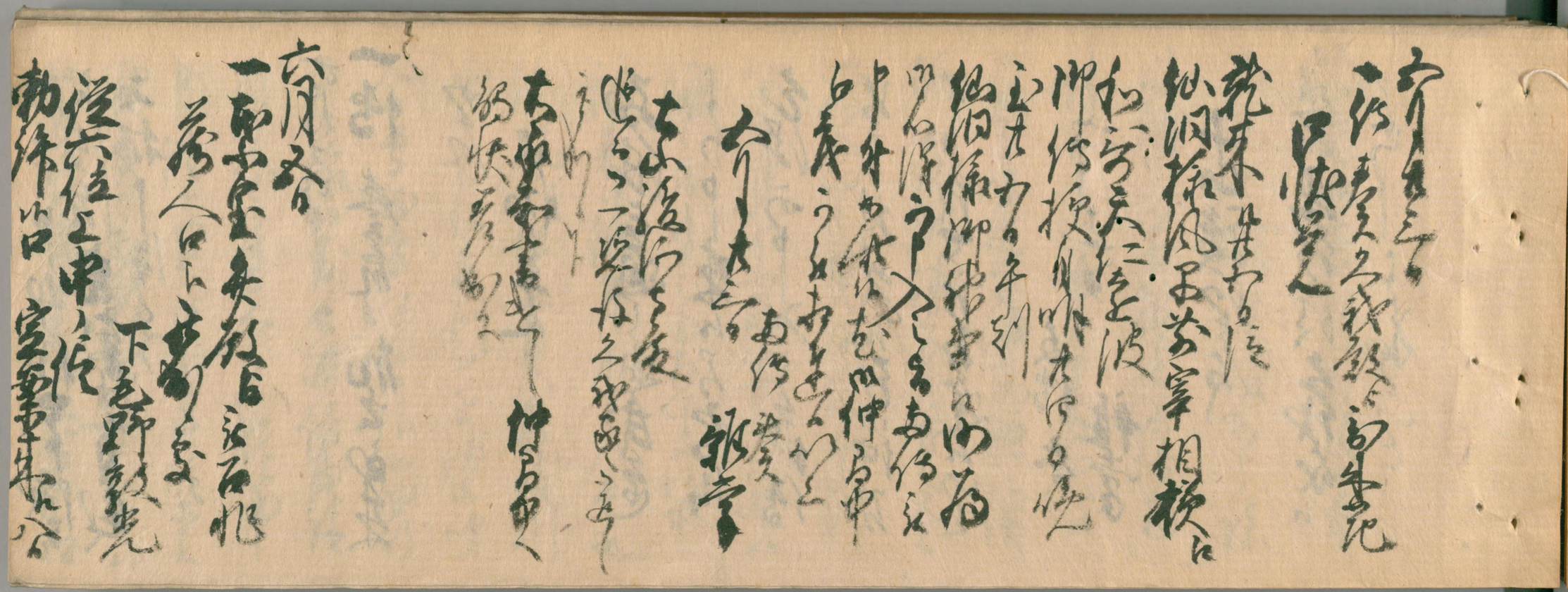
同中頭　同所門内

戊

四月

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

御ちやうに出御在而下段ニ
而御座候 當家老衆見也
書状ヲ御覧候

六月十六日
一傳奏衆ゟ願書来
如左

口上之覚

御所三通之道成道
より申来り可成候
御渡の申入候両傳
奏衆之被成候ニ付御所
中ゟ義ニ付而被遣候以上

六月十六日
両傳奏
雑掌

土山讃岐守殿

追而豊後守殿名判衆に
申し遣候

国立国会図書館　　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91

ガラス使用

於長崎唐紅江相渡候
海鼠干鮑之儀前々之通
御用ニ付稼方出精候様
請負人共買集来候処
近来追々海鼠鮑之漁
猟方并仕訓浦方減少又ハ
唐人向之煎海鼠干鮑ニ
仕立方之儀等閑ニ相成候
浦々有之由ニ相聞候前々
稼来候浦方ハ不及申追
漁猟并仕立方等茂致出精
浦々ニ而仕訓候様ニ浦方申
合出方相増候様ニ可致候
且又稼方ニ茂是迄俵物請
負人共手先之もの請負
申付而買入候ニ付直段之義
浦方之者共ニ対し浦々差障り候
御料私領浦々是迄運上ニ而

網干者浦々之儀ニ而摂州
并紀州海鼠干鮑ニ而紀
伊之方勢州新浦之分ニ而南
海運上之不及御法ニ而諸職
業ニ候ニ付第一之職ニ而
一、浦方之儀ハ国々其領主より
より津海風諸国之儀ニ而
勤之候得共何レ茂儀勤之
并近領之外金銀之儀ニ依而
右之浦方之儀ニ付請負之者ニ
書付ニ而下之者共ニ而言上
以下私領之分茂浦方
有之候ニ付太不准ニ
一、肥前長崎唐船ニ而於浦ニ而鯨
鯨之漁者有之諸国浦々
二、右鯨共漁ニ付諸方之
者ニ而有来ニ付元ニ而是迄
鯨鯨ニ而紀州浦方共之
勤方ニ而ハ申候共之鯨共ニ而

浦方之者ニ而御差遣鱶
鰭ニ而住訓浦之者鱶鰭
住訓ニ而ハ五浦之内入合場
所ニ而取集メ候而ハ稼ニ
相成候儀ニ付請負人江茂
差出し方之義ニ付申上候一同ニ
御差遣浦方之者江相対
次第ニ買請候得共御料ニ不二者
差遣運上取納来ニ而浦之之
御手ニ而採訓無ク鱶鰭取
様之稼方も有之候ニ付浦之者共
当所運上之儀者不及ニ而
鱶鰭之取立致候ニ付差遣候
其節ニ而茂海底干鮑者之
場方并諸品之差遣者文證ニ
候者精様并御請候様之者一之
候段ニ
右之浦方者ニ而無之者
料之内ニ付而私領之領之

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

地形より下ヶ申候

右之通寶暦十四申年明和

二月年号相改候ニ付雛形案

御補方尤之通相仕出

候ニ付是迄之相認方相添相

下候旨相願候

三月

右之通下ヶ相願候

切紙通用相済候ニ付判

之合判并切紙紙面付候

言操切離相成候旨被申候

御下判之儀ハ惣量之程ハ相済

合判并右合量等相済

之段御内意之通右願候

大切之分多分世上ニ流布

之不相成候切紙之儀者

相離候ハヽ是迄之

雛形之通ニ候様之旨合

小判ハ猶以之　切金もれ
白銀めくら市之町人
晦日ニ昼内ニ而も取かけ
そこ〳〵宜明き候ハヽ又さニ町
致シ候所有之候ハヽ金銀ニ而
宜候之通ニ差出し可申候
其外之節ハ町田屋ニ之
晦日ニ取かけそこ〳〵致させ候事
惣而町方百姓共不届
諸事之者有之候ハヽ吟味致
しらせ可被申候　右之外
是又其段之通用可致候
申合候ハヽ吟味有之候ニて
二之所之者ニ可遣之所
右之吟味之上急度可申
付候
右之通延享二丑年寛延
三午年ニ相触候得共猶又
其上ニ而切金之義惣日ハ
色方諸事より之所ニ候也

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

然下ニ付ニ
右之通江戸京大坂より
向後ニ而御料之御儀
私領ニ願之地頭より
差越候下ニ付ニ

六月

高野山学侶方
大徳院

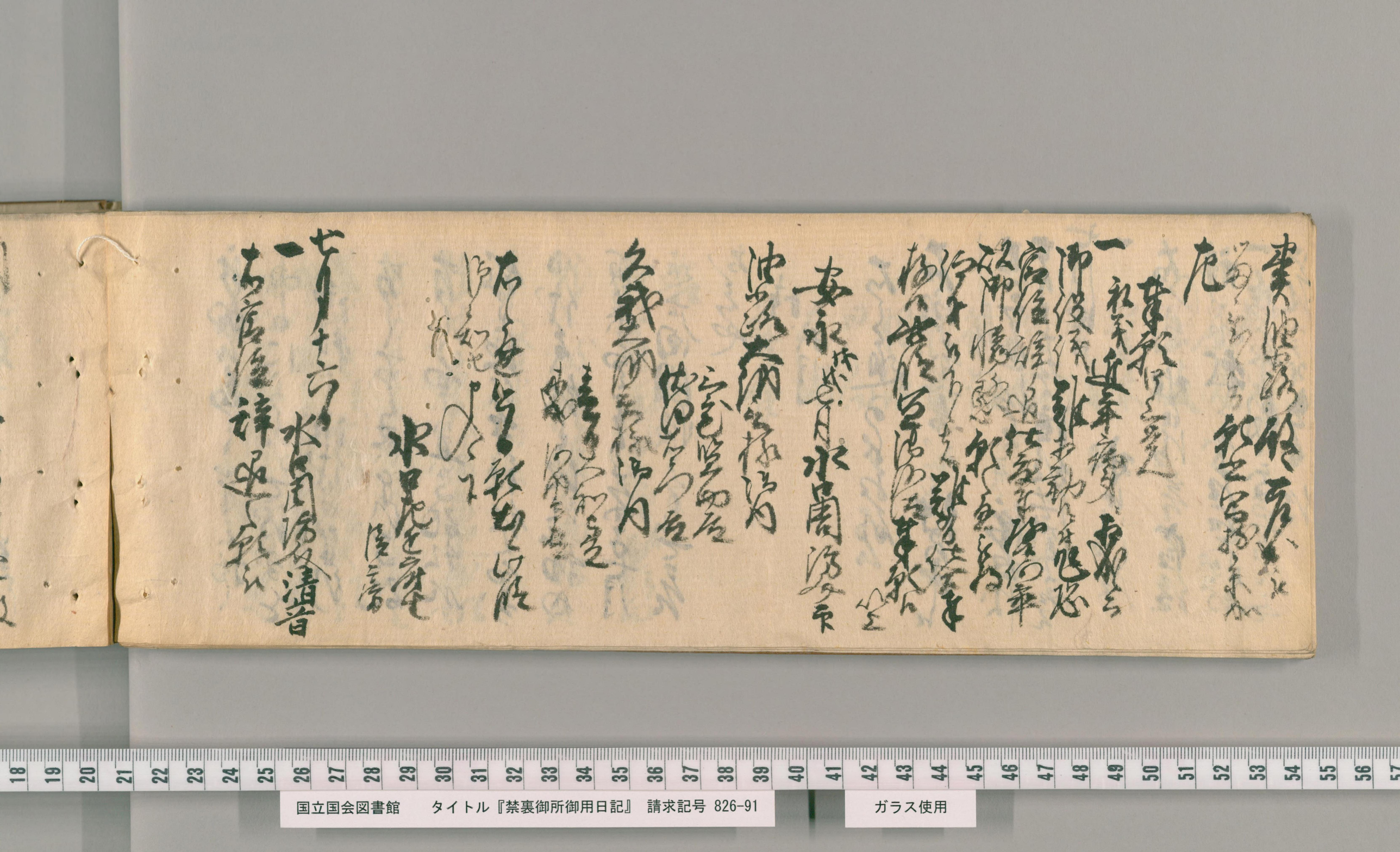
播磨
美作
備前
備中
備後
安芸
周防
長門
丹波
丹後
但馬
因幡
伯耆

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

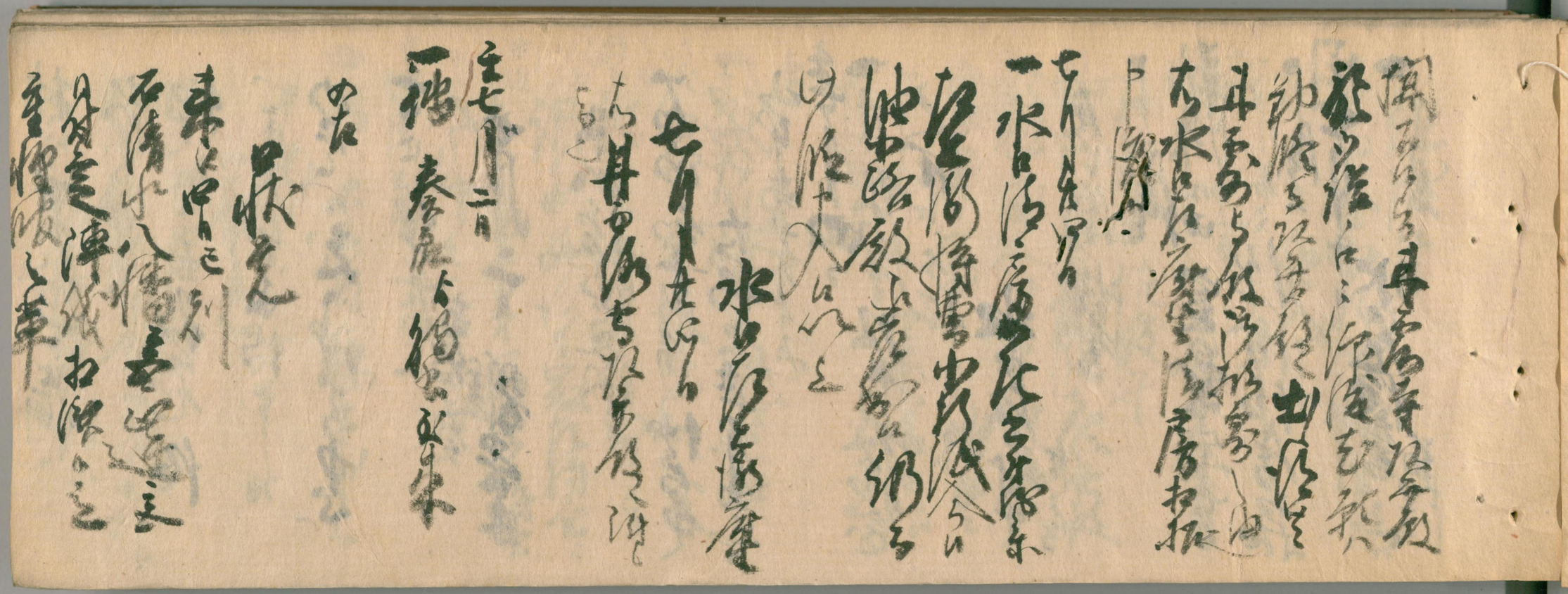
出雲
石見
隠岐
豊前
壱岐
筑前
筑後
肥前
肥後
日向
大隅
薩摩

右
御宮　御霊屋并諸向
惣大破修復為御成合
今度修復ニ付
御府内并大坂両地並
京方不ゝ上下家中を
且町方并右近国在々
当戌年より来子年
迄三ケ年之間勧化御免

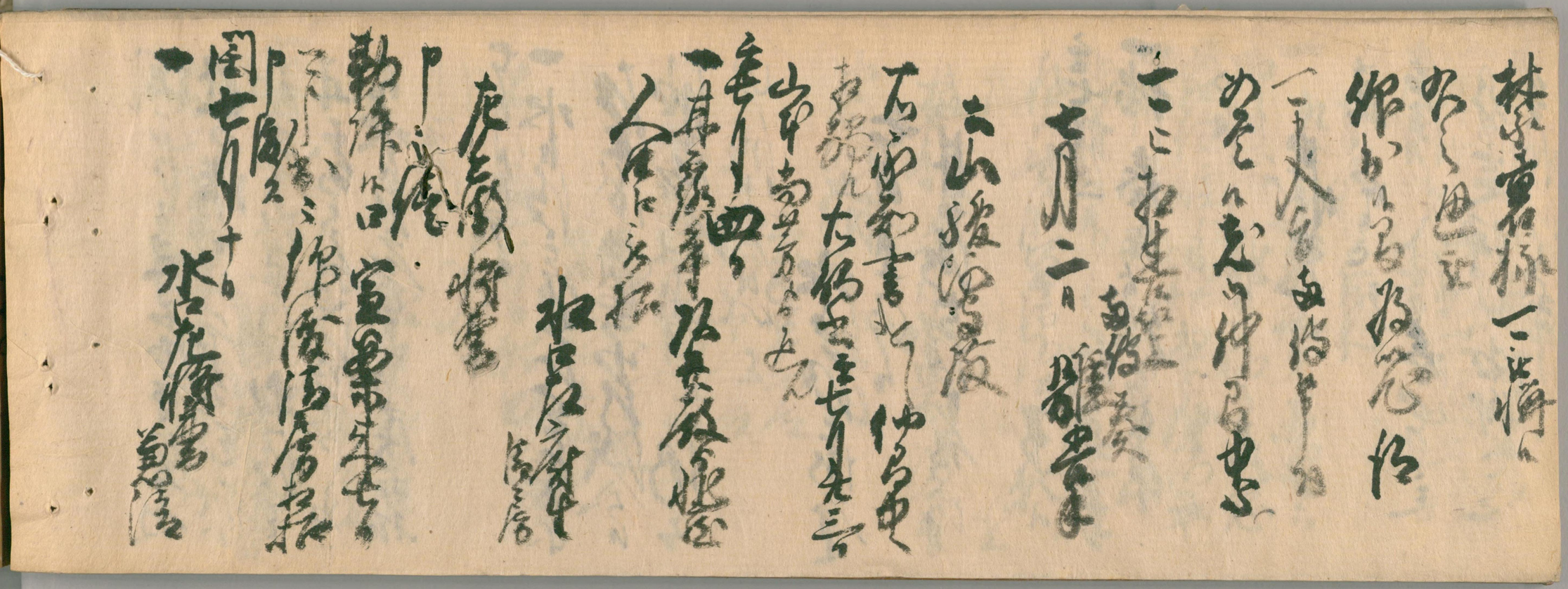
諸御寺之常之物ニ
及おにより候て取者を
ハ御料ニも清僧並等之
有之所ハ其寺々支配
有之分ハ其支配私領
領之地ハ寺社領ハ寺
社領ハ領主地頭ハ御
百姓中より来子七月
迄に可被相届候由ニて書付
出之也
戌七月
右之通ニ付相触候
右御知行寺社ニ付届ハ
候ハん
当三日御出候寺共御届候
七月十九日信級御届ニ候
一　七月四日
水口清左衛門
右之趣水口清左衛門宮経
禅之進新右衛門殿
一條家役人相届候
出候ニ付



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

佐渡守
右為心得申付候御附与力
渋谷与右衛門入来
壬七月十六日　水口惣清
一　右為登　佐渡守
勅使より御伝奏[illegible]
被仰渡候人日ニ而伝奏江
宣案一通内々被遣候て
二ツ折ニ而書付御渡
申渡之
壬七月廿六日
一　殿下御附武士[illegible]件
さしつかへ九條殿下
幼少ニ付[illegible]
[illegible]今日[illegible]
[illegible]
[illegible]入来[illegible]
壬七月廿五日
一　[illegible]所々[illegible]
申付
[illegible]之
[illegible]
[illegible]
三[illegible]

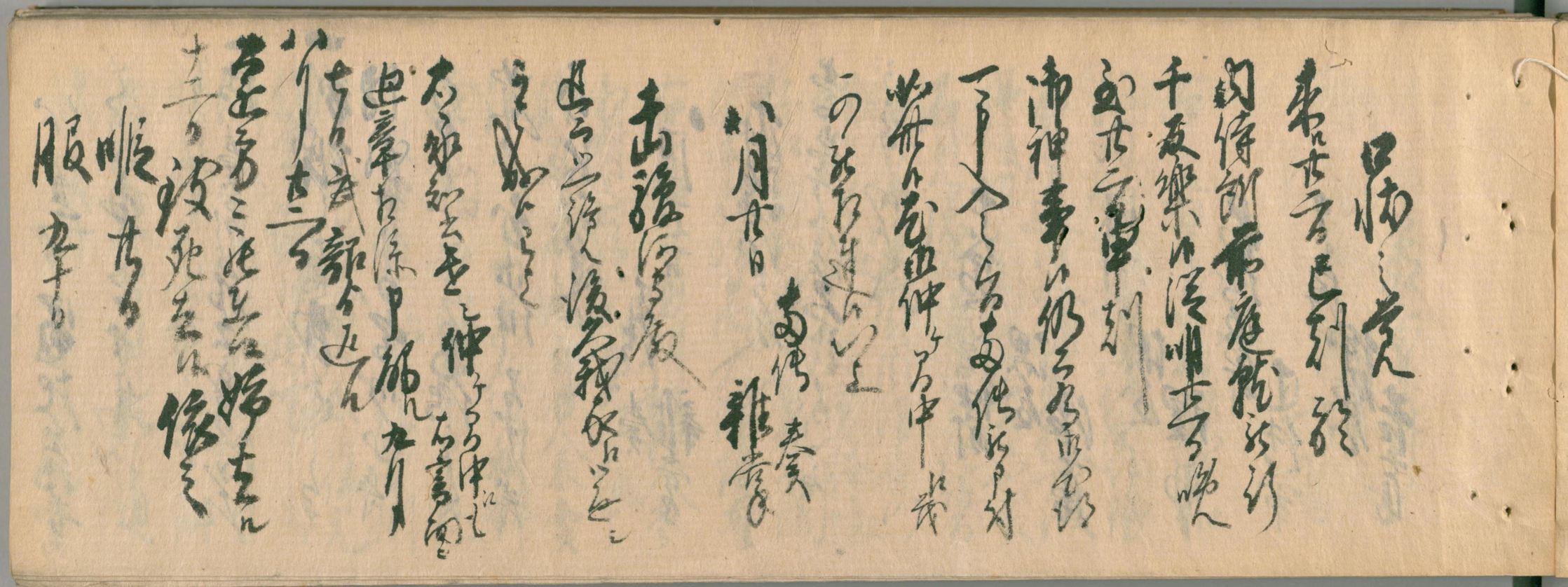
御修法結願ニ付
廿四日午刻
仙洞様御撫物ニ付
出候得ハ申来候ニ付
中村式部申上候由仲ケ間ヘも
つゝみよりのつと
同七月廿三日　長橋殿　中
新典侍
来ル経なさる
辻ゟ送りて頂候
御所ゟ申越候
右御利生ニ御祈禱
右之通ニ付候
勝出世八月十六日
ニ而被下遣ん
閏七月廿五日
一僧　貴殿ゟ勝出世来
御尼
　　旧藩ゟ之
他来月日
石清水八幡宮ニ而遣宮
従来廿九日晩ニ来月
二日朝

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

右之御幣料より出候
奉行所より死去之事ニ付
私領より御代地ニ付
寺社御代地ニ付御幣料之事
下津村ニ而相願

閏七月

右之通り相渡候

右組組合之中へ仲ケ間中も
太書面之通平松番所ニ
相ル　未ノ六月　山田
　　　尚又以之

一　八月十三日
　　　澄之助
　　　澄殿

太病気ニ付
相叶ひ候
死去ニ付
届出候

一　八月十三日
　　御奉行所へ届来
　　めされ

　　日光之
　　例幣使

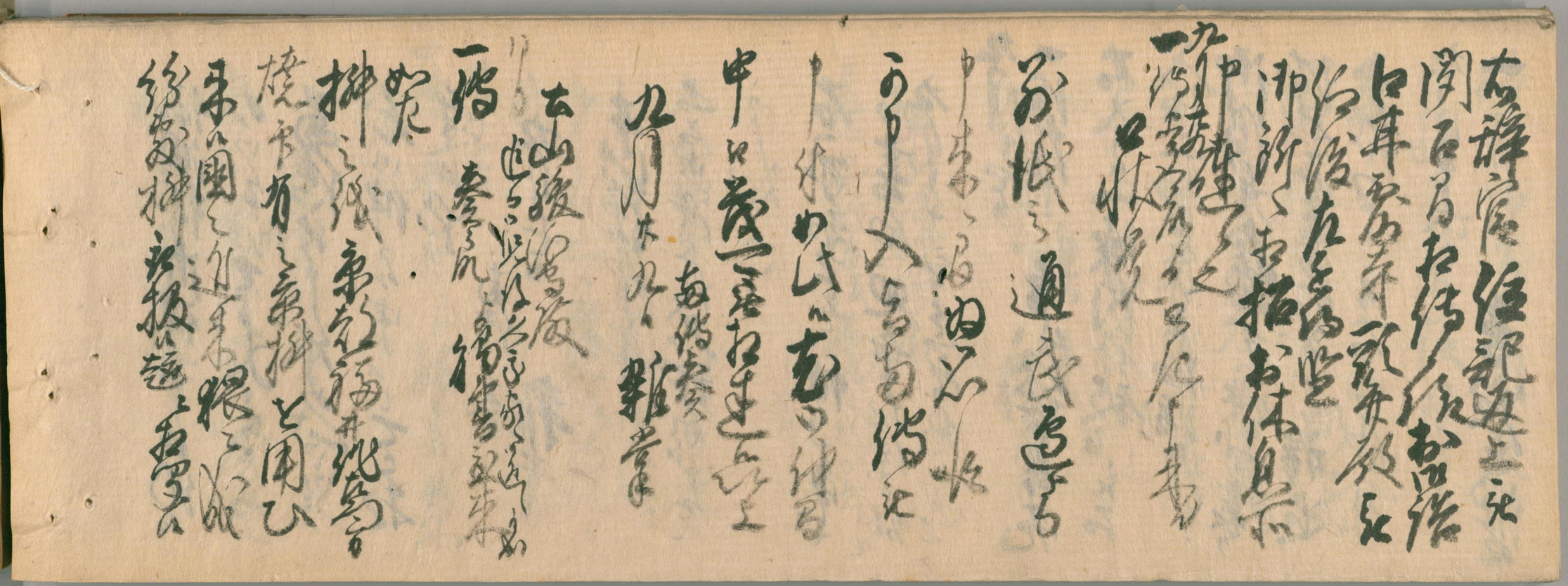
明後廿九日晩
御神事ニ付来月九日
晩迄十三日間
御潔斎ハ例之通也
頃日又〻之面〻西役所
申付出度ハ至山神子右
申いたし候様被達候也
八月廿七日　西役所　奏
雅楽

土山播磨殿
去ル淡路守殿方へ書状ヲ以申遣し
候所ニ
大坂紀伊国屋伊兵衛中ニて
大坂屋甚兵衛方ヨリ頼ミ
九月十六日之返答有之
也

九月四日
一伝奏衆より触書到来
之写
早速ニ差上
尾張中納言殿ハ広中

好君清方去月廿八日
東遊之ニ付、渡候、晩方立
来十八日
御様御機嫌ニは明ニ存
水谷得ニ而入ニ出東傳
右ニ付無之ニは尤御伺申付
此儀ニ而被仰遣[illegible]
東傳奏　雅楽
九月四日
古山播磨殿
進之　御渡ニ付取次ニ而
右之通申上
右御紙出も　御同月中ニも
右書面之通、口章相添、相渡
九月十二日　古播磨殿相渡候
此段
九月七日
一傳奏衆ゟ御書取来
如此
口演之覚
御例幣使御渡川九日晩
則十一日発遣

仙洞様御神事中ニ付
内々申入候通ニ候
萬里小路大納言殿
右以御書中ニ而申入候
恐々謹言
九月七日　萬里小路　奏
雅季
土山駿河守殿
吉田出羽守殿久我殿へも
右之外へ
右之趣承知を以伸達候
右書面之通ニ相心得候様
九月十三日出候
九月十四日
一堀田様　土山猪之亮
右今日一條内府殿ニ
入口三而候ニ付
御所方ニ御相談候て
境目者高元へ申達
土山ニも右之趣
九月十六日
一土山右近将監



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

道ゟ紀伊國境分ケ相決之
若山道ヘ下り候右宮
陵者高彭右強掛御
本地相定紀伊國之
永掛と用ひ申候然
於右山頂ニ一宿通ニ
右之麓登山内山沿道
南海道西海道山陰道
之内国境相見候覚
陽道並当役封之爲合
之掛天下御掛之役人
私領共所々地形ニ付て
此者相調
戌八月
右之通可此者相調候
右永御老中相続之
上様御中納言様十二月
十月十四日 松平右京亮
一南年宗門帳
書面之趣
右御下 宗門掛
一下役者

京四条下ル拾弐人　寛永ゟ下十壱人
政長　利恭　吉晃　葉全　成信
尚孔　尚芳　信夏　秀芳　厚典
武脩　蕃全　武城　武好　信宣
信永

十月廿三日
一 御法事中寛段
性海院御年忌十月廿日
御法事被為済候ニ付
御年寄中ゟ御挨拶
ニ而名銭被下置候
右之通申渡候間
中山主殿へ差出
右之趣申達候

十月廿八日
一 傳奏衆ゟ御書付来
写左
口上覚
就来月十七日新嘗会
御神事従来月十五日
従明後廿日晩
晩ゟ十八日朝
御潔斎候　但宣服
弁

御中陰到十九日朝
禁裏様ニて御斎之事
一従十六日暮六ツ時至
十八日朝五ツ時佛事ニ付
鳴物之音停止之事
一従十七日朝六ツ時至十八日
朝六ツ時御葬礼ニ付
修理造作并普請之事
諸事停止之事
但ニ新規作事ニ而ハ寺
穏便ニ仕候ハヽ不
苦事
一火之用心之儀常ニて猶
可附念此度ハ猶更入念
御神事之節ニ而厳重
則ニ候ニ付入念可申付事
右之趣為心得申入候
入念支配方ニ可被申付候
以上 尤以触頭ニ而
相達候以上
十月廿八日
孝信
某
雅楽

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

去ル丙午年大川筋御普請
出来候ニ付残材木払候
処、右御材木此度世話致
候様、御奉行所より被仰付候
来ル十一日迄ニ払代銀上納仕候様
御書付を以被仰渡候
旨被仰候

十二月六日　大山伊賀守
組与力被成候

此由被申候ニ付早々ニ右
御用之通ニ付

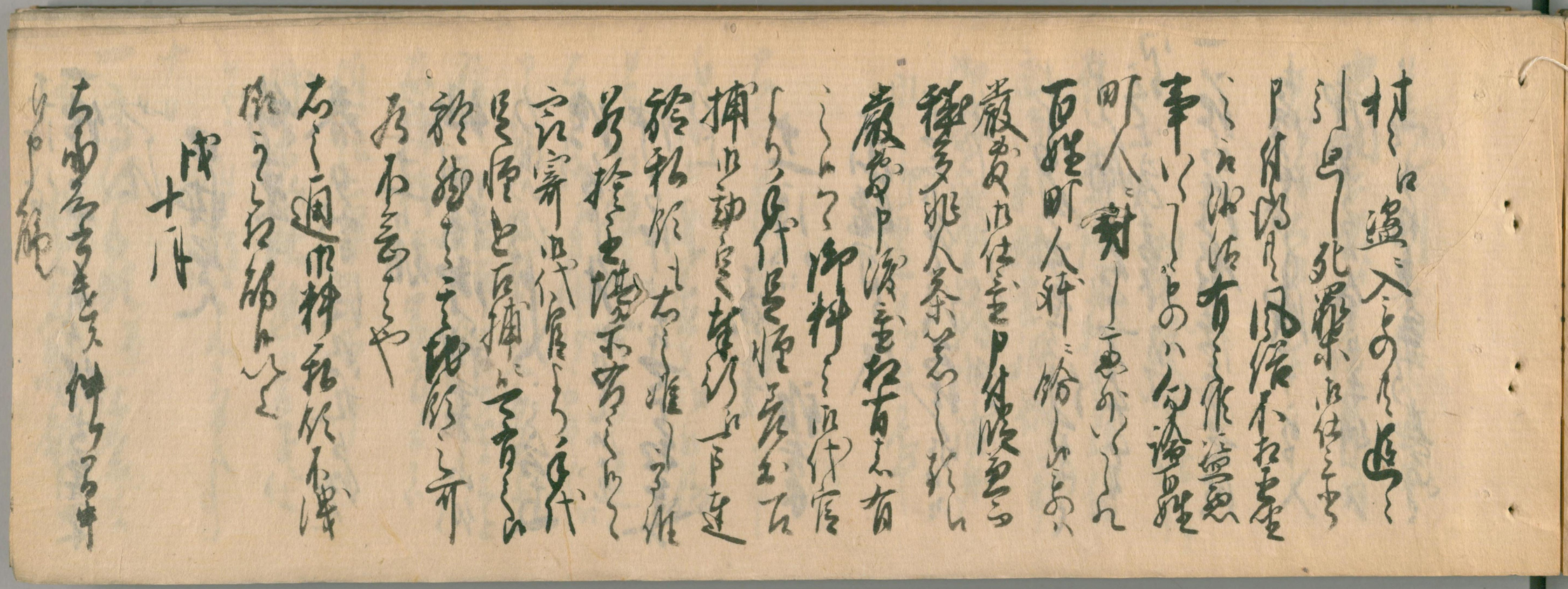
右ハ近年御材木御用ニ付
依之御奉行所ニ参候
右御書付を以閏月晦日ニ
御納候由、尚又宮家へ
申上ル

十二月七日
一、御嘉御用窺来
出尼
日状覚

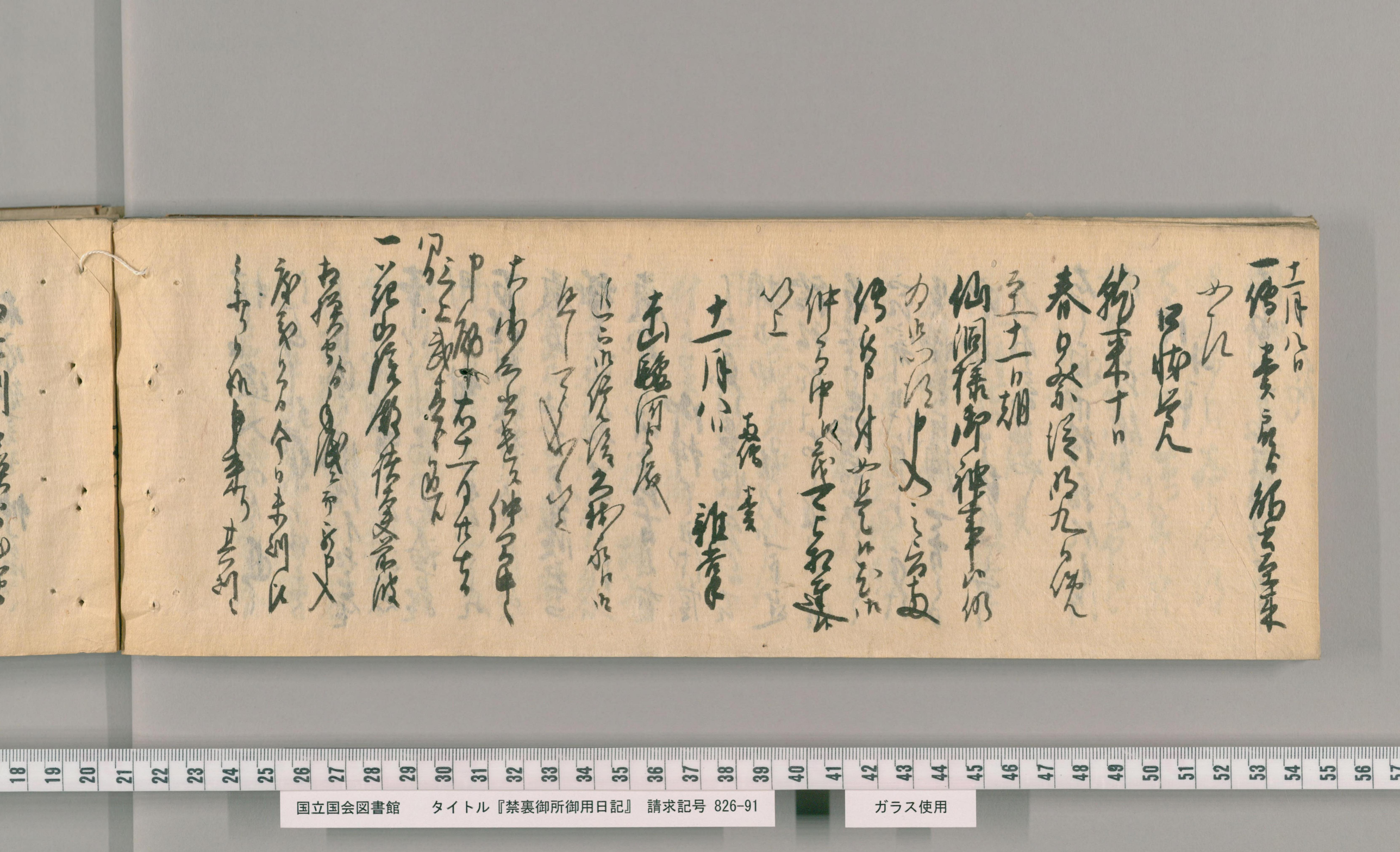
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91　ガラス使用

別紙之通武辺より
申来候ニ付為心得
可申入旨土佐守申付
如是候、尤右之仲間中江も
つたへ可被遣候以上
十月廿七日　土佐　義　雅楽
土橋河内殿
追而此廻状写し候後名前承知ニ
印形して可被返候以上

近来穢多非人共之内
風俗悪敷百姓町人江
対し法外之働いたし或ハ
百姓躰ニ紛し旅籠
屋煮売屋小酒屋等江立入
見咎候得者ねたりケ間敷申掛
候故百姓町人共ハ外聞ニ
拘り取捨置候故
法外之致方増長致候而ハ
猶更穢多非人共之儀
弥増長悪事之者可有
又ハ遠国之者共江申聞
粗有之候ニ付穢多共申合



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

右之段武家ゟ申来
其旨相心得候様被申渡
候事

十月十三日
一 諸 業房ゟ触書到来
如左

口上覚

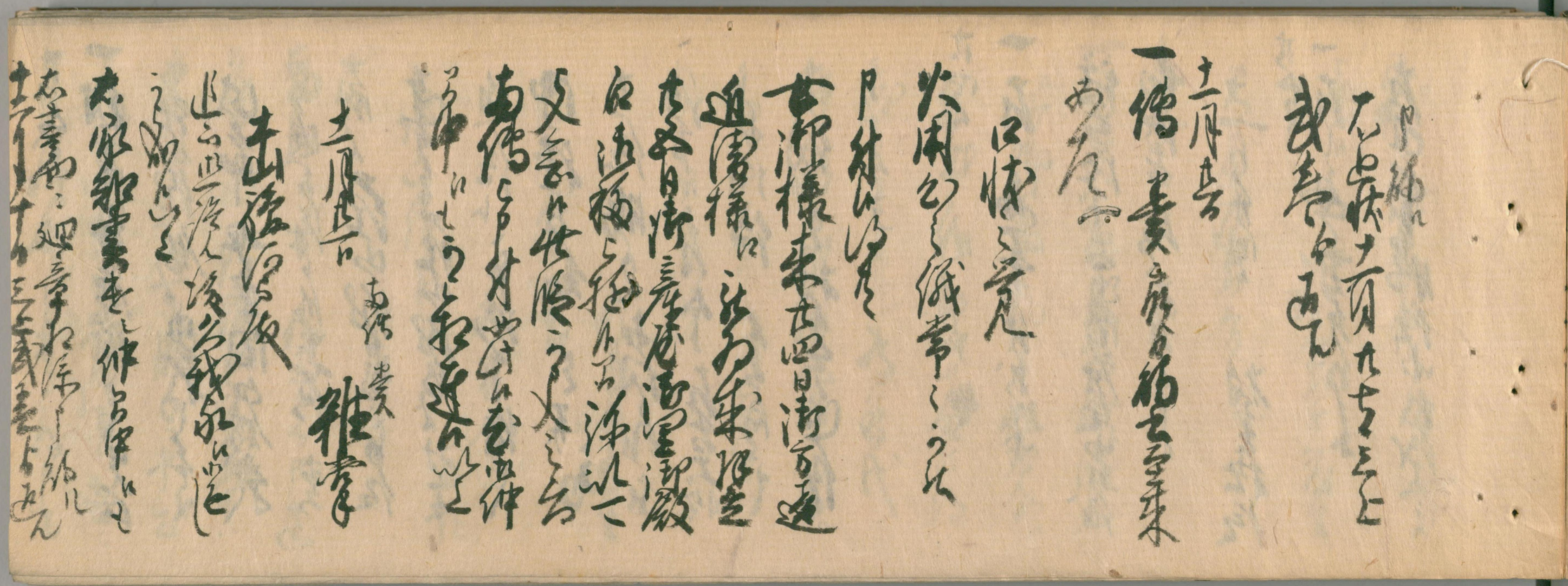
就新嘗祭御清後十五日
晩ゟ到十九日朝
仙洞様御神事ニ付
右之間御下人入込
其僧尼并服者并重軽
之輩其日限中御築地
之内

十一月十三日 業房
雑掌

吉田殿

右之通被致承知候様ニ此通
申越候事

表ニ張紙書付を御申付ニて

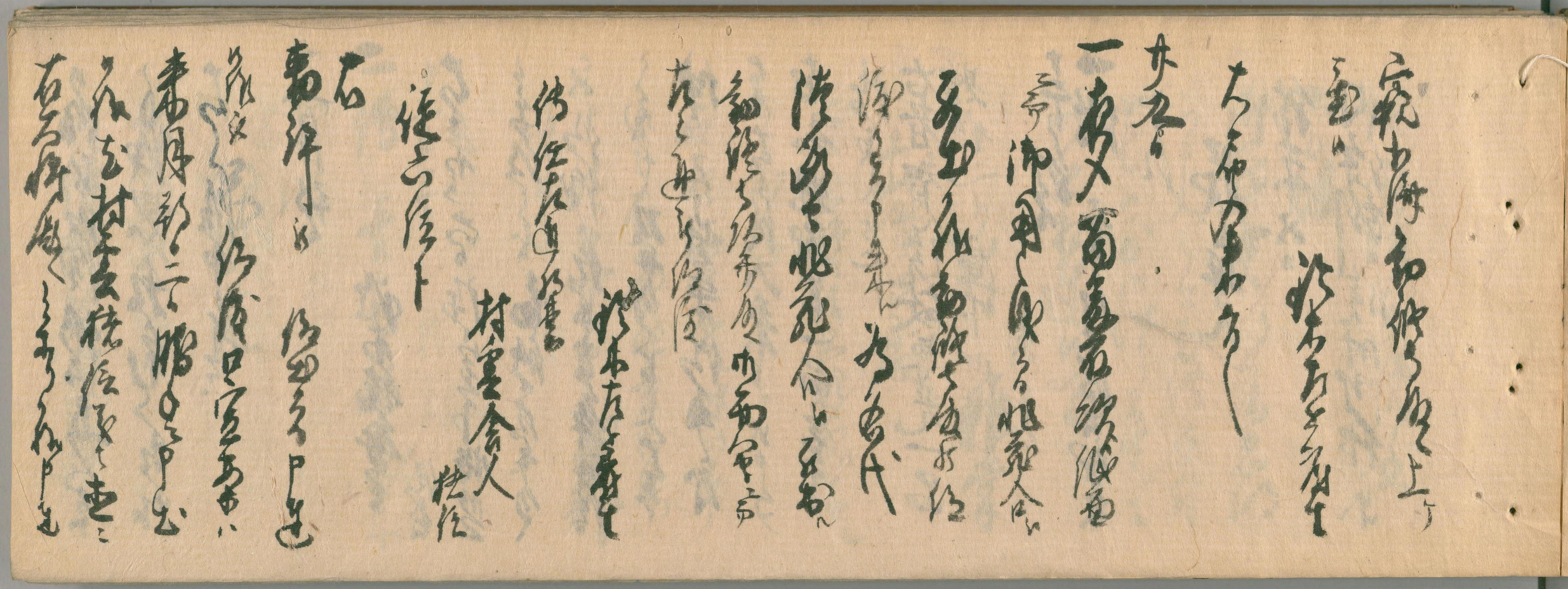


国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

廿三日
一 村上大和守廣橋殿え差出候
花山院殿・中院殿え
此節九条関白殿表
之通被成候 右之
両人ゟ花山院殿え申候
遣候ニ付花山院殿ゟ村上
御返答候ニ付 御下知之
御請之趣相知れ申候旨
申候ニ付 右之趣仰出
候ニ付 今日右大将
江相伺候 右趣も
右何れも村上返答
候事

廿四日
一 右之趣書付差上
諸太夫右近衛権中将殿
勅使参向之事
十月廿四日　村上大和守

廿五日
一 右之趣書付差出
右近衛権中将経小折紙



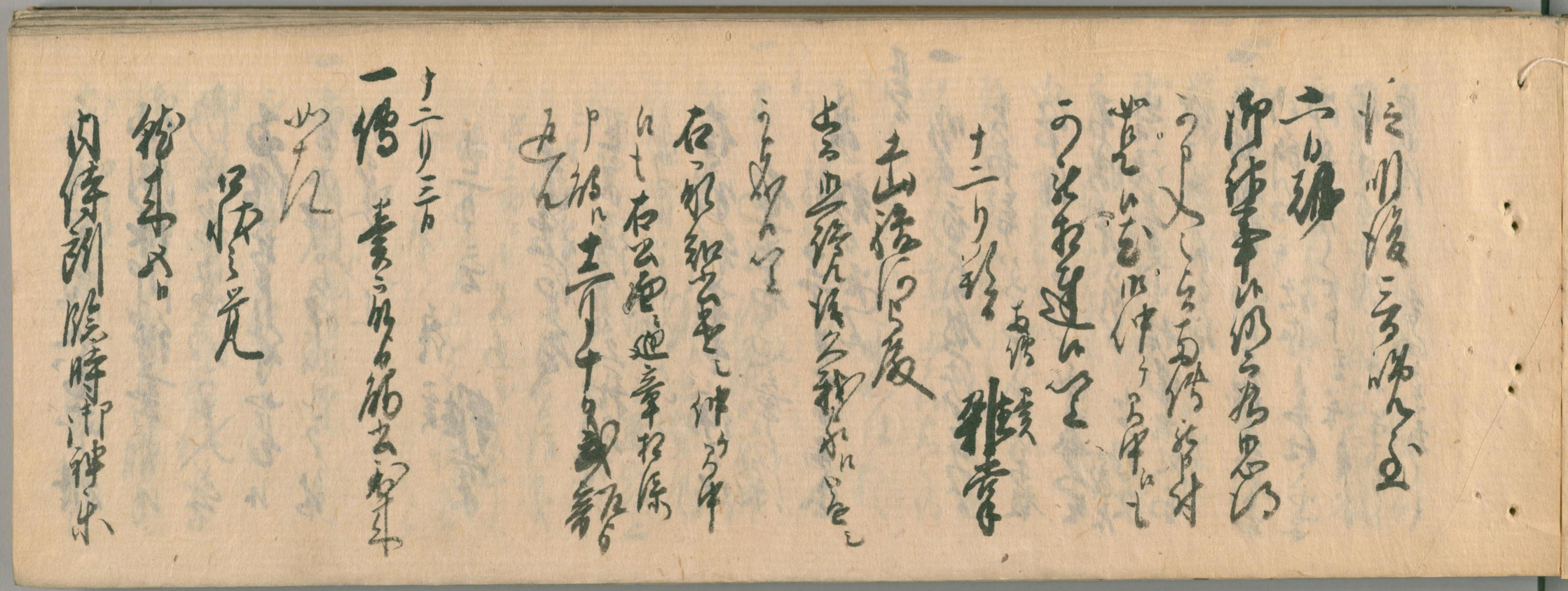
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

名代御用御参上申候
自殿より私宅へ来ル
右之趣申達候

十二月廿日

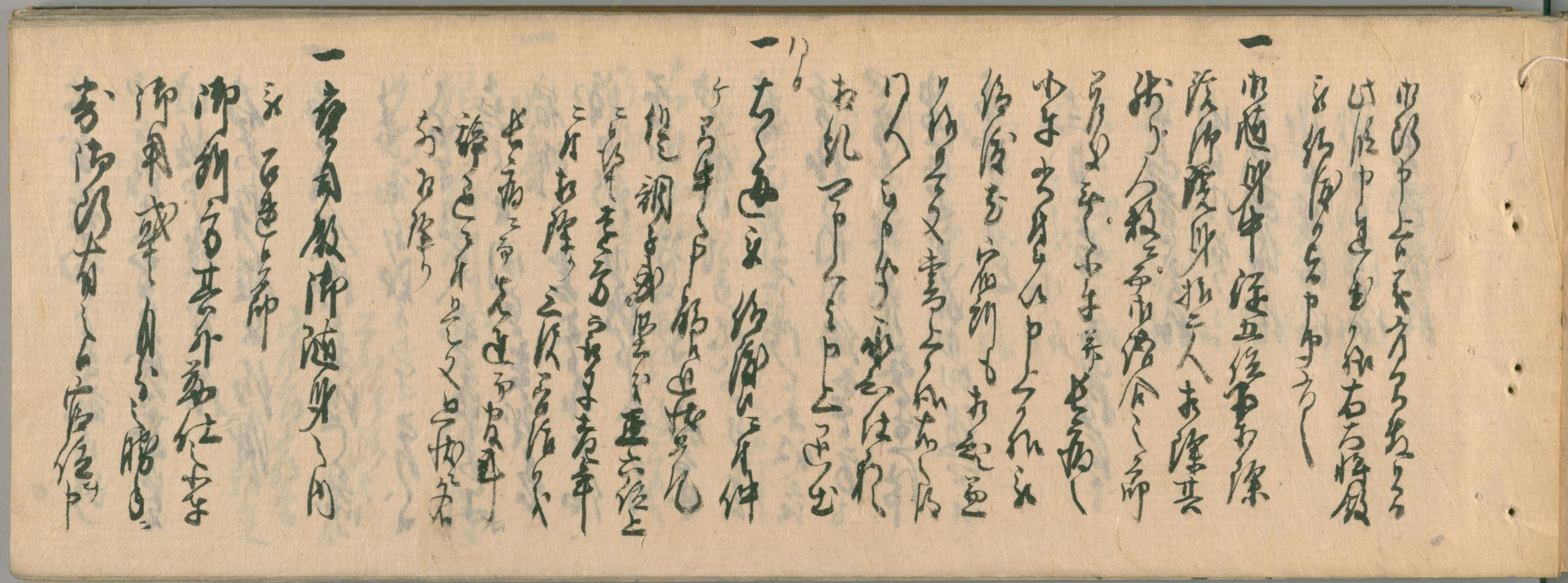
一 非蔵人 雑掌 渡辺
右来ル廿四日除服宣下
之事被仰出候 付 宣下
御用 依之御使被遣候
是者 及参上申上候
御同人 替来候 申参
右之儀 入来ニ而申入候
右 御取次 一品宮へ
依之 右者 智恩院故尊光一品
贈位 宣下也

十二月廿日
一 信濃 雑掌 参
如例
勝手ニ罷出
鈴木 文四
内侍所 御附御役料

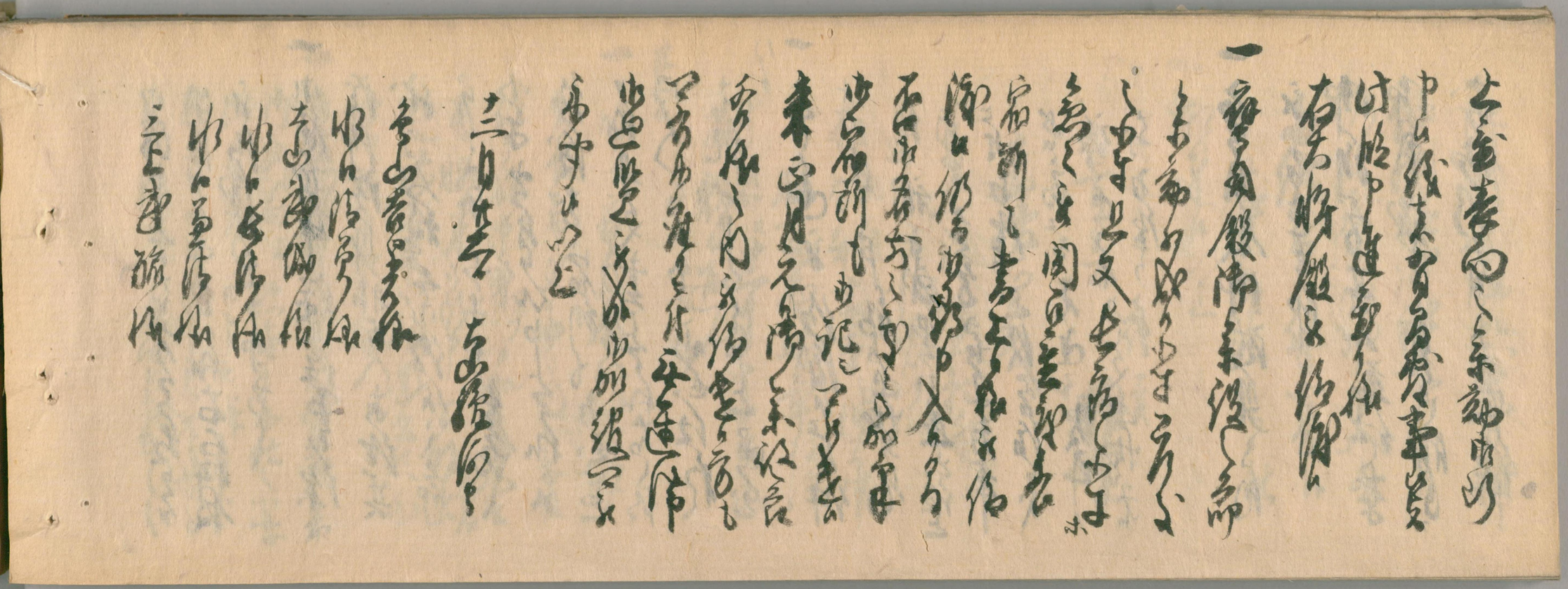


国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

羅?石塚経様
水口清筆様
山中栄令様
三浦澄乃様
三上夢兆様
村上義経様
三上武史様
水口清中様
山中重号様
水口清房様
親武号様
村上義恭経様

此者能登守之由ニ而
三略ニ而
右之村上義経ニ而
子細无之

一 出来
続御所 罷御待出
出九

土山房 武辰
宮本斎書 殺之

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91
ガラス使用

禁裏御所御用日記

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

元日

一 天気

院中四方拝ニ御参

ニ而候

奉行

富 敦光

右ニ無之由御番ニ

明ル五ツ半ニ罷出ル

御代富治左衛門

候ニ付被仰付候年

七日

一 明ル 御局御殿ニ而

御目付中 御用之義

此方ゟ申遣候 今日

御局御殿ニ 御出候ニ付

振八人中々も不残 御見物

九年ニ付 御奉行御役所

之様ニ而 右御礼之旨

申渡ス 右御奉行衆

右之様子 御役人中

之申付合候 御出座

一同申上 御書付 御用

御番所ゟ 御奉行ゟ出ス

申上候 御奉行衆出候

国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

四月十六日　土山駿河守

水口長清様

調子武重様

三上常斐様

水口清栄様

其上書院前ニ而承候、御呼出之

旨被仰渡候處、右之通申達

御出被成候事、五月五日之處

右之趣水口清栄へ申達候

四月廿一日　調子武重へ申渡ス

四月廿六日

一　當年賀茂祭ニ付、参役交名

御随身賀茂祭参役官位姓名

従六位上　水口　右近衛将曹身人部長清

従六位上　調子　右近衛府生秦武重

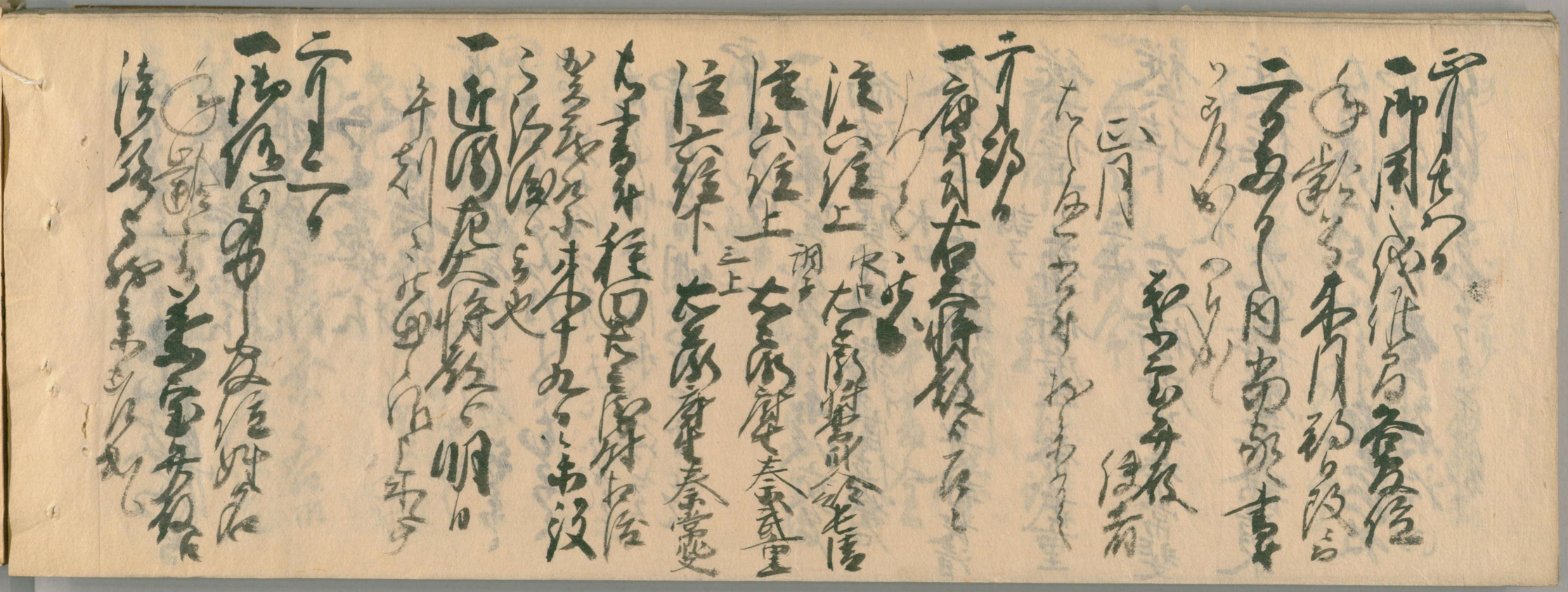
従六位下　三上　右近衛府生秦常斐

従六位下　水口　左近衛府生身人部清栄

右之通り御取調之上

御差出可被成候

以上　四月廿六日



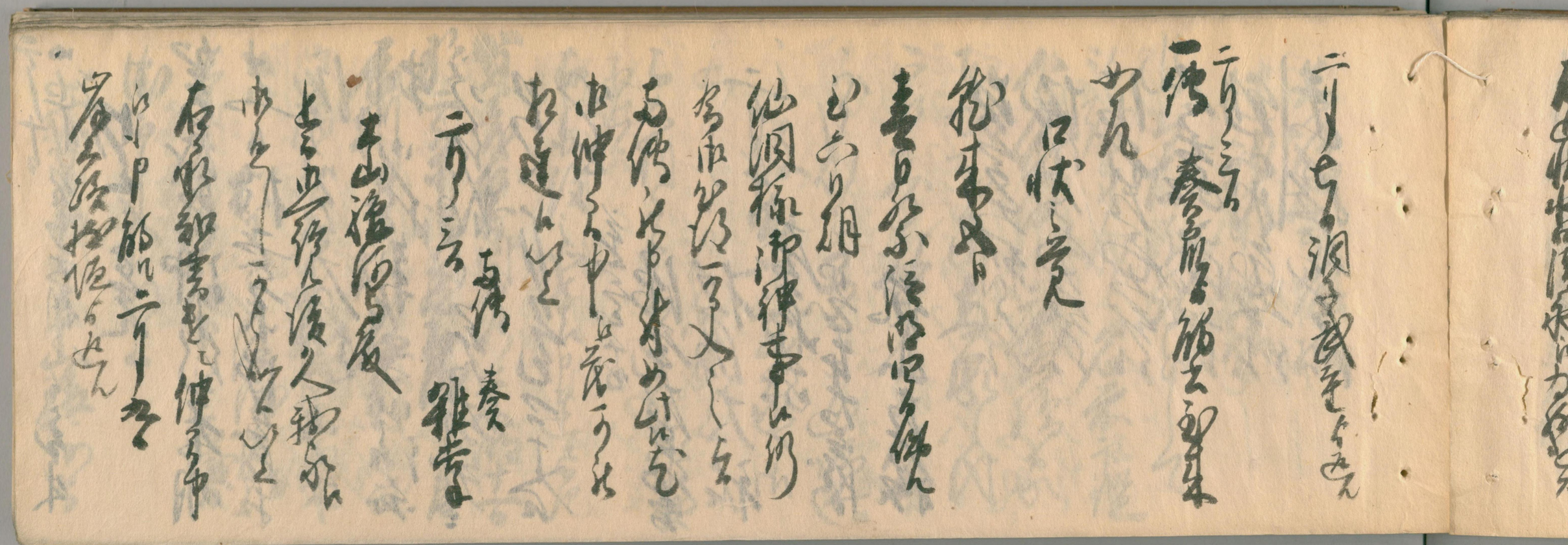
国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用

二月朔日
一 御参府ニ付鋪設如例
以上
日次覚
雑事五日
春日祭済服後三日
晩ニ至リ六日ヲ期
御神事ニ付御用心所
両日ハ大名 南御方
中日ハ行ニ付御神事
[illegible]進ニ付
二月朔日 春 参 雅楽
出勤御座候
此日御用掛之人 久我殿ニ
相成[illegible]
右之段承知書差出し 御用掛
御鋪設ニ二月六日迄
相伝[illegible]
二月二日
一 番所[illegible]
当番 [illegible]
中[illegible]
[illegible]

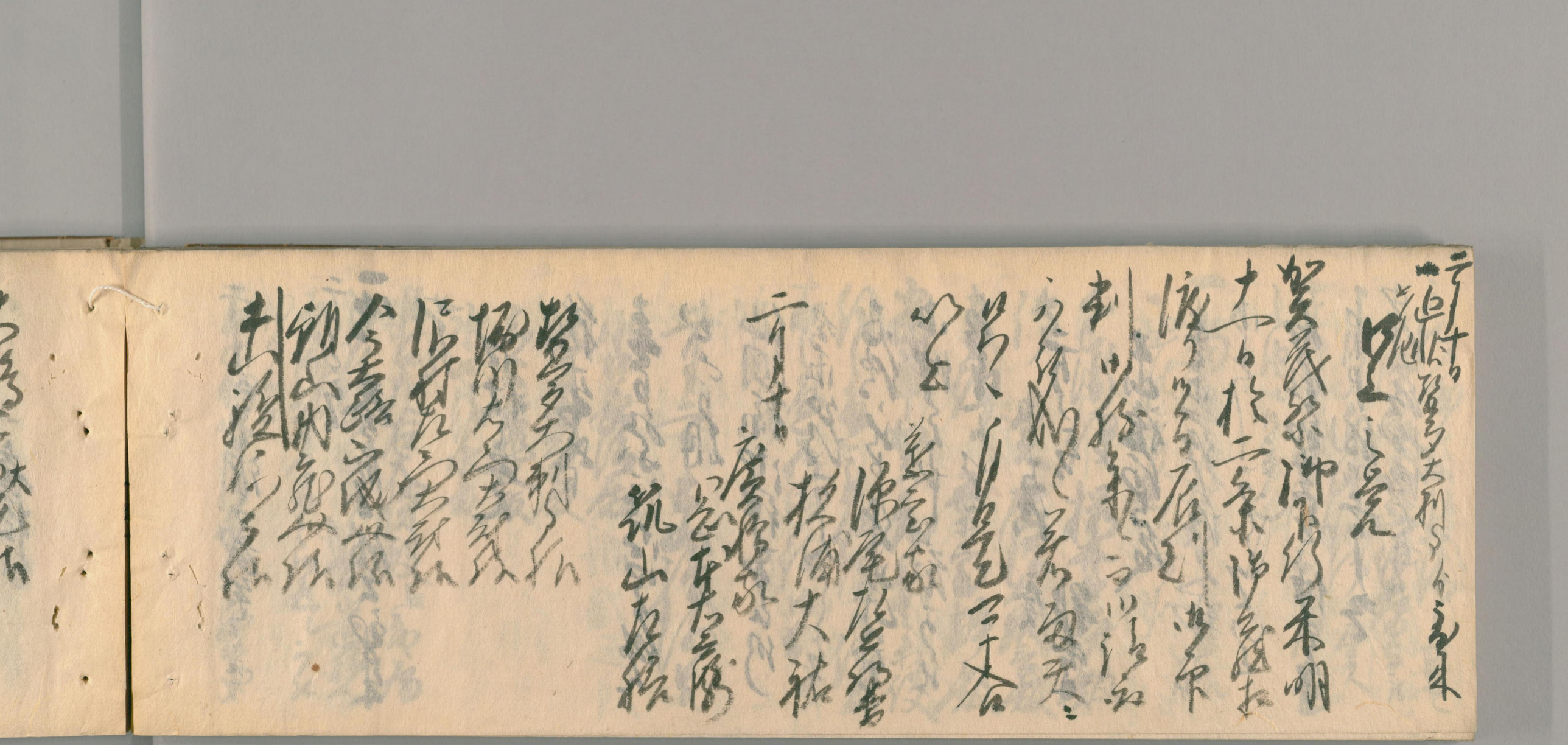
之御用ニ付参上
御所江中山中納言殿ニ
参り近衛殿江参ル
申上候処ニ而帰宅
之候事

一 当年御出入ニ付是ニ
此段申上候
飛鳥井殿　櫻井少将殿
修理職　廣橋大納言殿
奉行　番宮辨殿
当年加勢之義御用ニ付被仰付候
御返事之儀ハ追而御届
右之通御伺申上候処
以上

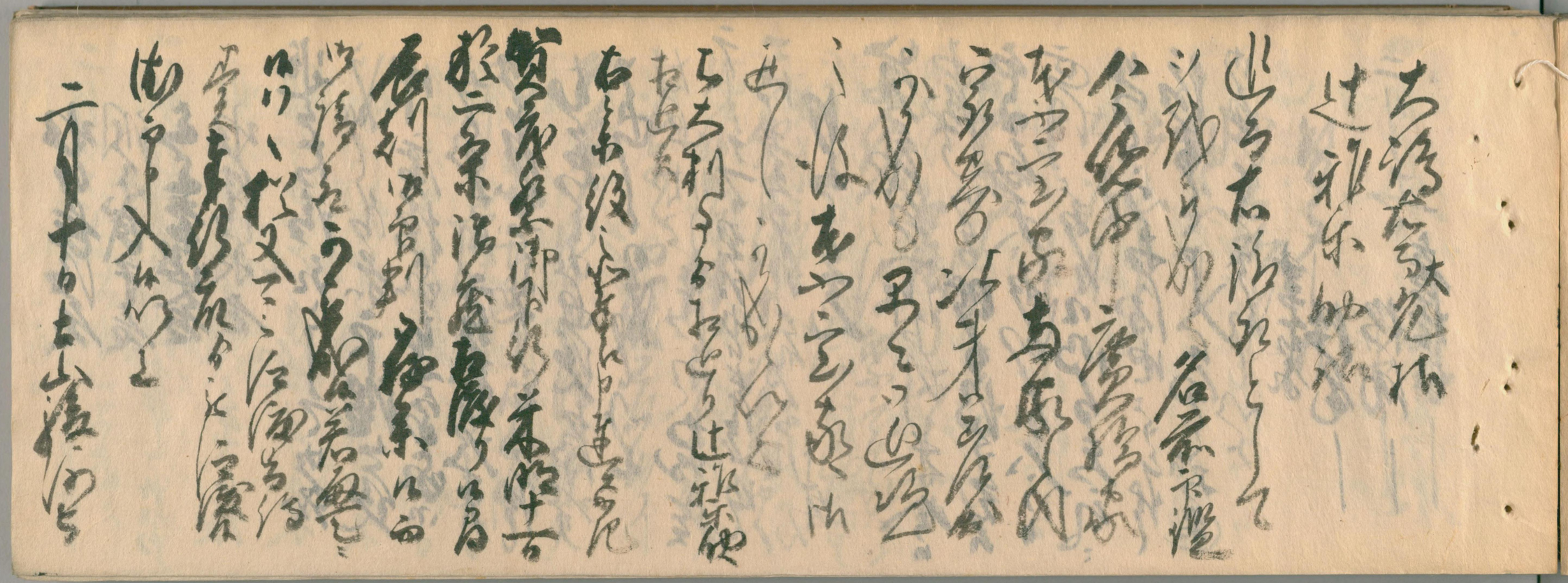
二月二日　土山淡路守
水口長門殿
細川式部殿
三上常陸殿
水口信濃殿
姫宮右大将殿江御届
御使者ハ当番之者
右御用ハ御渡シ候事
以上
右之取次ニ而御届之事



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『禁裏御所御用日記』　請求記号 826-91　ガラス使用